情報システム 学科　　2　年

| 科 目 名 | AI演習ⅡA | | | | | | | 学期 | 前　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 三好　尭昌 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 履修分類 | 選択必修 | 単位数 | 4 |
| 関係実務等 | Avintonジャパン株式会社にて勤務 | | | | | | | | |
| 学習目的 | AIを活用したプログラム実装について学習する。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | AIプログラミング言語を用いたライブラリを活用し、AIプログラムを作成する。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | AIを活用したプログラムを実装することができる。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | なし | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | AIプログラミングの全体像<br>Python基礎(Numpy, Pandas) |
| 2 | Python基礎(Numpy, Pandas) |
| 3 | 画像分類(OpenCV) |
| 4 | 画像分類(OpenCV)<br>画像分類(PyTorch) |
| 5 | 画像分類(PyTorch) |
| 6 | Avinton 事例紹介 + AI活用とは<br>物体検知アプリ作成 |
| 7 | 物体検知アプリ作成<br>骨格推定アプリ作成 |
| 8 | 骨格推定アプリ作成<br>エッジAIカメラ事例紹介 + ワークショップ |
| 9 | 画風変換アプリ作成 |
| 10 | 単語分割アプリ作成 |
| 11 | 類似文章検索アプリ作成 |
| 12 | LLMとRAGについて<br>RAGアプリケーション開発 |
| 13 | RAGアプリケーション開発 |
| 14 | APIの呼び出し |
| 15 | 課題制作 |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課 題　40 % | 各課題の内容・プロセスを評価する |
| | 2. 授業姿勢　30 % | 出席状況および授業への取り組み姿勢・忘れ物 演習への積極的取り組み姿勢 |
| | 3. テストその他　30 % | 各課題の考察を評価する |
| | 課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |

| | |
|---|---|
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | リモート形式による実施<br>参考書:Python×APIで動かして学ぶ AI活用プログラミング(秀和システム) |

情報システム 学科　　2　年

| 科 目 名 | AI演習ⅡB | | | | | | | 学期 | 後　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 三好　尭昌 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 履修分類 | 選択必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | Avintonジャパン株式会社にて勤務 | | | | | | | | |
| 学習目的 | AIプログラミング言語を用いた標準ライブラリを活用方法を学び、AIプログラムを実装できるようになる。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | フレームワークとAPIを活用し、AIプログラムを実装する中で、様々な課題を事例的に解決する。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | AIプログラミング言語を用いた標準ライブラリを活用し、AIプログラムを実装できるようになる。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | Python×APIで動かして学ぶAI活用プログラミング | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | AI活用プログラミング1 |
| 2 | AI活用プログラミング1 |
| 3 | AI活用プログラミング1 |
| 4 | AI活用プログラミング1 |
| 5 | AI活用プログラミング1 |
| 6 | AI活用プログラミング2 |
| 7 | AI活用プログラミング2 |
| 8 | AI活用プログラミング2 |
| 9 | AI活用プログラミング2 |
| 10 | AI活用プログラミング2 |
| 11 | AI活用プログラミング3 |
| 12 | AI活用プログラミング3 |
| 13 | AI活用プログラミング3 |
| 14 | AI活用プログラミング3 |
| 15 | 期末テスト |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課 題　40 % | 授業中の演習問題、課題の状況 |
| | 2. 授業姿勢　30 % | 出席状況、授業に対する積極性 |
| | 3. テストその他　30 % | 期末テスト |
| | 課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | |

情報システム 学科　　2　年

| 科 目 名 | プログラムPBLⅡA | | | | | | | 学期 | 後　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 松井　丈夫 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 選択必修 | 単位数 | 4 |
| 関係実務等 | Avintonジャパン株式会社にて勤務 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 2年前期までに学習したことを基に、簡単な模擬プログラムを作成することを通して、仕事の仕方を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | グループまたは個人でプログラムの研究・企画・作成する。その成果を発表する。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 目的に応じたアプリケーションを構築し、設計に沿ったプログラムを作成することができる。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 特になし | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | システムの作成実習　プログラム作成の計画 |
| 2 | システムの作成実習　計画に沿っての基本設計、詳細設計、プログラミング、単体テスト、結合テスト |
| 3 | システムの作成実習　計画に沿っての基本設計、詳細設計、プログラミング、単体テスト、結合テスト |
| 4 | システムの作成実習　計画に沿っての基本設計、詳細設計、プログラミング、単体テスト、結合テスト |
| 5 | システムの作成実習　計画に沿っての基本設計、詳細設計、プログラミング、単体テスト、結合テスト |
| 6 | システムの作成実習　計画に沿っての基本設計、詳細設計、プログラミング、単体テスト、結合テスト |
| 7 | システムの作成実習　計画に沿っての基本設計、詳細設計、プログラミング、単体テスト、結合テスト |
| 8 | システムの作成実習　計画に沿っての基本設計、詳細設計、プログラミング、単体テスト、結合テスト |
| 9 | システムの作成実習　計画に沿っての基本設計、詳細設計、プログラミング、単体テスト、結合テスト |
| 10 | システムの作成実習　計画に沿っての基本設計、詳細設計、プログラミング、単体テスト、結合テスト |
| 11 | システムの作成実習　計画に沿っての基本設計、詳細設計、プログラミング、単体テスト、結合テスト |
| 12 | システムの作成実習　計画に沿っての基本設計、詳細設計、プログラミング、単体テスト、結合テスト |
| 13 | システムの作成実習　計画に沿っての基本設計、詳細設計、プログラミング、単体テスト、結合テスト |
| 14 | システムの作成実習　計画に沿っての基本設計、詳細設計、プログラミング、単体テスト、結合テスト |
| 15 | システムの作成実習　計画に沿っての基本設計、詳細設計、プログラミング、単体テスト、結合テスト |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課 題　40 % | プログラムの作成状況、理解度を評価するグループの作業状況および、グループ内での個人の作業状況を評価する |
| | 2. 授業姿勢　30 % | 課題作成への取り組み姿勢、積極性、グループへの協力を評価する出席状況を加味する |
| | 3. テストその他　30 % | 作成したプログラムの内容、創意工夫点を評価するプログラムの全体、発表内容を評価する |
| | 課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 1月下旬から2月初旬 卒業成果発表会 | |

情報システム 学科　　1　年

| 科 目 名 | Web演習ＩＡ | | | | | | | 学期 | 後　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 伊東 順一 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 選択必修 | 単位数 | 1 |
| 関係実務等 | 株式会社MINAMIにてシステムエンジニア | | | | | | | | |
| 授業内容 | Webサイトの構築の技術のうち静的なページを作成できるようになる | | | | | | | | |
| 学習目的 | HTML及びCSSの説明と実習 | | | | | | | | |
| 学習目標 | HTMLとCSSを用いたページを作成できるようになる HTMLとCSSの違いを理解する | | | | | | | | |
| 使用テキスト | これだけで基本がしっかり身につく HTML/CSS&Webデザイン1冊目の本 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | はじめに<br>HTMLとCSS |
| 2 | HTMLの基礎<br>インターネットでは画面サイズや持っているフォントが異なるパソコンが使われている |
| 3 | HTMLで公開できる文章の形<br>見出しと段落<br>箇条書きや引用など |
| 4 | HTMLの見出しや段落の表示を調整する<br>属性の設定<br>見出しや段落に名前をつける<br>id,class |
| 5 | HTMLの文(Text)の書き方<br>日本語の書き方 |
| 6 | HTMLファイルの奥付(ヘッダー)の書き方 |
| 7 | HTML総合演習 |
| 8 | HTMLとCSS<br>CSSの基本<br>CSSを書く場所 |
| 9 | HTML中の要素を選んでCSSで操作する<br>セレクター |
| 10 | CSSでの色やサイズや文字列の指定方法 |
| 11 | HTMLの箱型の要素を囲ったり色を付けるボックスモデル<br>段落や箇条書きを操作する |
| 12 | Fontの指定の仕方<br>インターネットではすべての端末が同じフォントを持っているわけではない<br>テキストの表示方法を決める |
| 13 | Fontの指定の仕方<br>インターネットではすべての端末が同じフォントを持っているわけではない<br>テキストの表示方法を決める |
| 14 | HTMLとCSSの総合演習 |
| 15 | HTMLとCSSの総合演習 |

| | 評価項目/割合 | | 評 価 内 容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課 題 | 50 % | 課題達成率で評価する |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | 出席と授業態度 |
| | 3. テストその他 | 20 % | 授業中に行う質問への回答で評価する |
| | 課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | | |

情報システム 学科　　2　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | Web演習ⅡA | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 伊東 順一 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 選択必修 | 単位数 | 1 |
| 関係実務等 | 株式会社MINAMIにてシステムエンジニア | | | | | | | | |
| 授業内容 | Webサイトの構築の技術のうち静的なページを作成できるようになる | | | | | | | | |
| 学習目的 | HTML及びCSSの説明と実習 | | | | | | | | |
| 学習目標 | HTMLとCSSを用いたページを作成できるようになる HTMLとCSSの違いを理解する | | | | | | | | |
| 使用テキスト | これだけで基本がしっかり身につくHTML/CSS&Webデザイン1冊目の本 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | ブログサイトのCSS<br>フレックスボックスレイアウト<br>「ページ全体」、「ヘッダ」、「メインエリア」 |
| 2 | ブログサイトのCSS<br>「サイドバー」、「記事エリア」、「フッター」 |
| 3 | Web招待状サイトのHTML |
| 4 | Web招待状サイトのCSS<br>CSSを書く手順<br>フォント、レイアウト、共通部分、ヘッダ |
| 5 | Web招待状サイトのCSS<br>各セクション<br>フッター |
| 6 | CSSアニメーションの基礎 |
| 7 | レスポンシブウェブデザイン |
| 8 | シングルページCSSの演習 |
| 9 | 複数ページサイトの作成<br>制作の流れとWebデザインの基本 |
| 10 | 複数ページサイトの作成<br>複数ページサイト作成時のポイント<br>ページのコーディング |
| 11 | 複数ページサイトの作成(モバイル版) |
| 12 | 複数ページサイトの作成(PC版) |
| 13 | 参照サイトの活用 |
| 14 | Webサイトの公開 |
| 15 | 総合演習 |

| | 評価項目/割合 | | 評 価 内 容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課 題 | 50 % | 課題達成率で評価する |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | 出席と授業態度 |
| | 3. テストその他 | 20 % | 授業中に行う質問への回答で評価する |
| | 課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | | |

情報システム 学科　　2　年

| 科 目 名 | 最新IT技術ⅡA | | | | | | | 学期 | 通年　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 鮓川　隼人 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 選択必修 | 単位数 | 1 |
| 関係実務等 | 株式会社TODOにてシステムエンジニア | | | | | | | | |
| 学習目的 | 最新のIT業界・技術を知り、IT技術者としての思考やアイデア創出のベースを作る。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 最新のIT業界・技術を調査、体験し、IT業界の将来像を考察する。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 最新のIT業界・技術を知り、将来のIT動向および社会動向に対する意見を語れるようになる | | | | | | | | |
| 使用テキスト | テキストはありません。予め、講義資料を配布いたします。 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | DX時代にみつけるべきスキルについて<br>DXとITの違いやDXの目的を学びます。またDXを実現するにあたって必要な知識や技術について具体例を交えて考察します。 |
| 2 | AIと画像解析次項の実習で学ぶAIとAIの活用事例、および画像解析技術について学びます。 |
| 3 | LINE APIとChatGPTを用いて、チャットボットを作成してみよう<br>チャットボットの仕組みを理解して、APIを用いたプログラムの呼び出しやとサーバ環境について学び、LINEで送ったメッセージに対して、ChatGPTにより回答を生成するボットを作ります。 |
| 4 | |
| 5 | |
| 6 | YOLOとopenCVで画像解析をしてみよう<br>物体検出アルゴリズムYOLO（You Only Look Once）とopenCVライブラリを用いて画像解析を行うするプログラムを作成します。YOLOを用いれば、画像中に何が写っているのかを抽出することが出来ます。openCVは画像処理を行うためのライブラリです。これらを組み合わせて、取り込んだ画像に写っているものを教えてくれるプログラムを作成します。 |
| 7 | |
| 8 | |
| 9 | IoT技術について<br>IoT(モノのインターネット)について、身近な例や将来の発展性について考察し、そこに必要な知識や技術について学びます。 |
| 10 | ドローンをプログラムで操縦しよう<br>ドローンとPCをインターネットで繋いで、PC上で用意したプログラムに従ってドローンを操る実験を行います。 |
| 11 | |
| 12 | センサーをもちいた計測とマッピングをしよう<br>Lidar（光検出によるセンサー）とRaspberry Pi(カスタマイズしやすい小型のコンピュータ)を接続して、対象のものとの距離を測定して対象の形状を認識するプログラムを作成します。部屋の広さや形を測定してマッピングデータを表示してみましょう。 |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |

| | 評価項目/割合 | | 評 価 内 容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課 題 | 50 % | 各課題の内容・プロセスを評価する |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | 出席状況および授業への取り組み姿勢・忘れ物 演習への積極的取り組み姿勢 |
| | 3. テストその他 | 20 % | 各課題の考察を評価する |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | | |

情報システム 学科　　2　　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | サウンドⅡA | | | | | | | 学期 | 前　　期 |
| 担当教員 | 藤久　尚子 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 選択必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 株式会社シュプレースンにて代表取締役として勤務 | | | | | | | | |
| 学習目的 | ゲームのBGMの作り方を学習し、制作します。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | ゲームのBGMの制作を行います。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 制作中のゲームに必要なBGMを制作することができます。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | なし | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | DAWの使い方、ドラム・パートを作る |
| 2 | 音楽理論（音階）、ベース・パートを作る |
| 3 | 音楽理論（コード）、ピアノ・パートを作る |
| 4 | メロディの作り方、コードの役割 |
| 5 | これまでの復習、曲の全体設計をする |
| 6 | 課題制作 |
| 7 | 音楽理論（伴奏の作り方） |
| 8 | ステップアップ編（テンポ、リズム、メロディ、強弱） |
| 9 | ステップアップ編（ドラム、ベース、エフェクター） |
| 10 | レベルアップ編（キー、コード進行、音程のしくみ、メジャーコード、マイナーコード、セブンスコード、ナインスコード） |
| 11 | ゲームのBGM制作指示書を作る |
| 12 | リファレンスの研究、リファレンスに基づいた曲制作のやり方 |
| 13 | リファレンスの研究 課題制作 |
| 14 | 課題制作 |
| 15 | 課題制作 |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　　40 % | 演習課題・作品完成度・発表 |
| | 2. 授業姿勢　30 % | 出席状況および授業への取り組み姿勢・忘れ物 重要ポイントを各自しっかりチェックされているか　演習問題等への積極的取り組み姿勢 |
| | 3. テストその　30 % | 各章ごとの確認制作および練習問題 ノート等の提出 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | |

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　　年

| 科 目 名 | 建築法規ＩＡ | | | | | | | 学期 | 前　　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 吉野　由美 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 選択必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 1級建築士の資格を有し、建設会社にて設計業務に従事している。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 二級建築士建築法規の範囲を学び、建築法規の基本を理解する。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 二級建築士の建築法規を学ぶ。特に建築基準法等。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 二級建築士の試験内容を学び理解する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 総合資格学院 二級建築士学科 法規テキスト、問題集、トレイントレーニング、建築関係法令集（法令編）※適宜プリント配布 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 1-1　用語の定義 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 2 | 1-2　確認申請・建築手続 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 3 | 1-3　面積・高さ等の算定 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 4 | 1-4　一般構造 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 5 | 確認テスト① | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 6 | 1-5　耐火・防火 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 7 | 1-6　防火地域・準防火地域 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 8 | 1-7　防火区画 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 9 | 1-8　避難施設等 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 10 | 確認テスト② | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 11 | 1-9　内装制限① | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 12 | 1-9　内装制限② | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 13 | 1-10　構造計算・構造強度 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 14 | 1-11　敷地等と道路 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 15 | 確認テスト③ | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |

| | 評価項目/割合 | | 評　価　内　容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 20 % | 授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況 |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | ①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価 |
| | 3. テストその他 | 50 % | 確認テスト、期末テストより評価 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・ | | | |

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 建築法規ＩＢ | | | | | | | 学期 | 後　　期 |
| 担当教員 | 吉野　由美 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 選択必 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 1級建築士の資格を有し、建設会社にて設計業務に従事している。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 二級建築士建築法規の範囲を学び、建築法規の基本を理解する。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 二級建築士の建築法規を学ぶ。特に建築基準法、関係法令等。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 二級建築士の試験内容を学び理解する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 総合資格学院 二級建築士学科 法規テキスト、問題集、トレイントレーニング、建築関係法令集（法令編）※適宜プリント配布 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 1-12　用途地域 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 2 | 1-13　建蔽率 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 3 | 1-14　容積率 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 4 | 1-15　高さ制限 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 5 | 確認テスト① | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 6 | 1-16　日陰規制 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 7 | 1-17　雑則・その他の規定 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 8 | 2-1　建築士法 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 9 | 2-2　バリアフリー法 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 10 | 確認テスト② | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 11 | 2-3　耐震改修促進法 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 12 | 2-4　品確法・瑕疵担保履行法 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 13 | 2-5　都市計画法 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 14 | 2-6　その他の関係法令 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 15 | 確認テスト③ | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |

| | 評価項目/割合 | | 評 価 内 容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 20 % | 授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況 |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | ①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価 |
| | 3. テストその | 50 % | 確認テスト、期末テストより評価 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・ | | | |

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 建築構造力学ＩＡ | | | | | | | 学期 | 前　　期 |
| 担当教員 | 竹村　哲也 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 選択必 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 1級建築士の資格を有し、建築設計事務所にて設計業務に従事している。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 二級建築士建築構造（力学）の範囲を学び、構造力学の基本を理解する。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 二級建築士の構造力学を学ぶ。特に力のつり合い、反力、応力（部材に生じる力）、トラス等。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 二級建築士の構造の試験内容を学び理解する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 総合資格学院 二級建築士学科 構造テキスト、問題集、トレイントレーニング※適宜プリント配布 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 0　基礎数学テスト | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 2 | 1-1　力のつり合い<br>1-1-1　力<br>1-1-2　モーメント | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 3 | 1-1-3　力の合成と分解<br>1-1-4　力のつり合い | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 4 | 1-1-5　構造物に働く力（過重）<br>1-2-1　構造物のモデル化 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 5 | 確認テスト① | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 6 | 1-2　反力<br>1-2-2　支点と反力<br>1-2-3　構造物の種類 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 7 | 1-2-4　反力の求め方<br>1-2-4-1　基本 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 8 | 1-2-4-3　鉛直反力の公式 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 9 | 片持ち梁の反力　トラスの反力 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 10 | 静定ラーメンの反力 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 11 | 確認テスト② | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 12 | 1-3-1　応力の種類<br>1-3-2　応力の求め方　基本 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 13 | 1-3-2　応力の求め方　応用 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 14 | 1-3-3　応力図 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 15 | 確認テスト③ | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |

| | 評価項目/割合 | | 評　価　内　容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 20 % | 授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況 |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | ①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価 |
| | 3. テストそ0 | 50 % | 確認テスト、期末テストより評価 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・ | | | |

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 建築構造力学ＩＢ | | | | | | | 学期 | 後　　期 |
| 担当教員 | 伏間　崇太郎 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 選択必 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | １級建築士の資格を有し、建築設計事務所にて設計業務に従事している。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 二級建築士建築構造（力学）の範囲を学び、基本的な構造力学が理解出来るようになる。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 二級建築士の構造力学を学ぶ。特に座屈、応力度等。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 二級建築士の試験内容を学び理解する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 総合資格学院 二級建築士学科 構造テキスト、問題集、トレイントレーニング※適宜プリント配布 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 前期の復習 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 2 | 1-4　トラス | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 3 | 1-4-2-1　切断法 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 4 | 1-4-2-2　図解法 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 5 | 確認テスト① | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 6 | 1-5-1　断面一次モーメント | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 7 | 1-5-2　断面二次モーメント | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 8 | 1-5-3～1-5-5　断面係数～剛度と剛比 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 9 | 1-6　座屈 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 10 | 確認テスト② | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 11 | 1-7-1～1-7-3　応力度の種類～せん断応力度 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 12 | 1-7-4　曲げ応力度 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 13 | 1-7-5　許容応力度 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 14 | 1-7-6、1-7-7 部材の変形、構造力学で用いる単位・用語 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 15 | 確認テスト③ | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |

| | 評価項目/割合 | | 評　価　内　容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 20 % | 授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況 |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | ①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自らエ夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価 |
| | 3. テストその | 50 % | 確認テスト、期末テストより評価 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・ | | | |

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 建築一般構造ＩＡ | | | | | | | 学期 | 後　　期 |
| 担当教員 | 伏間　崇太郎 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 選択必 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 1級建築士の資格を有し、建築士事務所にて設計業務等に従事している。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 二級建築士建築構造（建築一般構造）の範囲を学び、建築一般構造の基本を理解する。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 二級建築士の建築一般構造を学ぶ。特に荷重・外力、構造計画、地盤・基礎、木造等。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 二級建築士の試験内容を学び理解する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 総合資格学院 二級建築士学科 構造テキスト、問題集、トレイントレーニング※適宜プリント配布 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 2-1　荷重・外力① | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 2 | 2-1　荷重・外力② | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 3 | 2-1　荷重・外力③ | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 4 | 確認テスト① | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 5 | 2-2　構造計画① | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 6 | 2-2　構造計画② | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 7 | 2-2　構造計画③ | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 8 | 2-2-2　その他の構造計画<br>2-2-3　代表的な構造種別 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 9 | 確認テスト② | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 10 | 2-3　地盤・基礎① | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 11 | 2-3　地盤・基礎② | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 12 | 2-4　木造① | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 13 | 2-4　木造② | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 14 | 2-4　木造③ | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 15 | 確認テスト | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |

| | 評価項目/割合 | | 評　価　内　容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 20 % | 授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況 |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | ①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価 |
| | 3. テストその | 50 % | 確認テスト、期末テストより評価 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・ | | | |

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 建築施工ＩＡ | | | | | | | 学期 | 前　　期 |
| 担当教員 | 星屋　吉宏 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 選択必 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 1級建築士の資格を有し、建築士事務所にて設計業務等に従事している。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 二級建築士建築施工の範囲を学び、建築施工の基本を理解する。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 二級建築士の建築施工を学ぶ。特に契約・計画・管理、各部工事等。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 二級建築士の試験内容を学び理解する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 総合資格学院 二級建築士学科 構造テキスト、問題集、トレイントレーニング※適宜プリント配布 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 1-1　契約 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 2 | 1-2　施工計画 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 3 | 1-3　管理計画 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 4 | 確認テスト① | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 5 | 2-1　仮説工事 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 6 | 2-2　地盤・土工事・基礎 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 7 | 2-3　鉄筋工事<br>2-4　型枠工事 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 8 | 確認テスト② | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 9 | 2-5　コンクリート工事① | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 10 | 2-5　コンクリート工事② | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 11 | 2-6　鉄骨工事① | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 12 | 2-6　鉄骨工事② | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 13 | 2-7　コンクリートブロック工事<br>2-8　ALCパネル工事<br>2-9　押出成形セメント板工事 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 14 | 2-10　木工事 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 15 | 確認テスト③ | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |

| | 評価項目/割合 | | 評　価　内　容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 20 % | 授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況 |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | ①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価 |
| | 3. テストその | 50 % | 確認テスト、期末テストより評価 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・ | | | |

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 建築施工ⅡA | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 星屋　吉宏 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 自由選択 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 1級建築士の資格を有し、建築士事務所にて設計業務等に従事している。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 一級建築士建築施工の範囲を学び、構造力学の基本を理解する。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 一級建築士の施工を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 一級建築士の施工の試験内容を学び理解する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 総合資格学院 学科過去問スーパー7、総合資格学院　1級建築士試験 学科　ポイント整理と確認問題、総合資格学院　1級建築士試験 学科　厳選問題集500+125、その他適宜プリント配布 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 工事全体の流れ | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 2 | 施工計画・工程管理 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 3 | 材料管理、申請・届出 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 4 | 測量・地盤調査 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 5 | 仮設工事 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 6 | 土工事・山留め工事 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 7 | 基礎工事 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 8 | 鉄筋工事 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 9 | 型枠工事 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 10 | コンクリート工事 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 11 | 鉄骨工事 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 12 | 防水工事 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 13 | 木工事 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 14 | 改修工事 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 15 | 請負契約 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |

| | 評価項目/割合 | | 評 価 内 容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 20 % | 授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況 |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | ①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価 |
| | 3. テストその他 | 50 % | 確認テスト、期末テストより評価 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | | |

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 建築計画ⅡA | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 小林　弘二 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 選択必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 1級建築士の資格を有し、自営する会社にて仕事を請け負っている。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 一級建築士建築計画の範囲を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 一級建築士建築計画の範囲を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 一級建築士の建築計画の試験内容を学び理解する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | TAC　1級建築士試験 学科Ⅰ新体系テキスト（計画）、TAC 過去問題集（計画）、その他適宜プリント配布 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 1 建築士の職責・業務 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 2 | 2 建築物の環境共生 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 3 | 確認テスト① | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 4 | 3 マネジメント | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 5 | 4-2 集合住宅 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 6 | 確認テスト② | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 7 | 5 公共建築 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 8 | 5-8 公共建築の実例 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 9 | 確認テスト③ | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 10 | 4-3　劇場 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 11 | 7-2　面積算定・寸法設計の概要 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 12 | 確認テスト④ | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 13 | 10　積算<br>8　都市計画 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 14 | 9　建築史 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 15 | 確認テスト⑤ | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |

| | 評価項目/割合 | | 評　価　内　容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 20 % | 授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況 |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | ①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価 |
| | 3. テストその他 | 50 % | 確認テスト、期末テストより評価 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | | |

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 建築環境工学ⅡA | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 大楠　安紀 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 選択必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 1級建築士の資格を有し、建築士事務所にて構造設計業務等に従事している。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 一級建築士建築環境設備の範囲を学び、環境設備の基本を理解する。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 一級建築士の環境設備を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 一級建築士の環境設備の試験内容を学び理解する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | TAC　1級建築士試験 学科Ⅱ新体系テキスト（環境設備）、TAC 過去問題集（環境設備）、その他適宜プリント配布 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 1　室内環境 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 2 | 1　室内環境 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 3 | 2　換気 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 4 | 2　換気 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 5 | 3　伝熱・結露 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 6 | 3　伝熱・結露 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 7 | 4　日照・日射 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 8 | 4　日照・日射 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 9 | 5　採光・照明 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 10 | 5　採光・照明 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 11 | 6　色彩 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 12 | 6　色彩 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 13 | 7　音響 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 14 | 7　音響 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 15 | 確認テスト | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |

| | 評価項目/割合 | | 評　価　内　容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 20 % | 授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況 |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | ①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価 |
| | 3. テストその他 | 50 % | 確認テスト、期末テストより評価 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | | |

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 建築設備ⅡA | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 大楠　安紀 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 選択必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 1級建築士の資格を有し、建築士事務所にて構造設計業務等に従事している。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 一級建築士建築環境設備の範囲を学び、主に設備の基本を理解する。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 一級建築士の環境設備を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 一級建築士の環境設備の試験内容を学び理解する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | TAC　1級建築士試験 学科Ⅱ新体系テキスト（環境設備）、TAC 過去問題集（環境設備）、その他適宜プリント配布 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 8　建築設備 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 2 | 8　建築設備 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 3 | 8　建築設備 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 4 | 9　空気調和設備 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 5 | 9　空気調和設備 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 6 | 9　空気調和設備 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 7 | 10　給排水衛生設備 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 8 | 10　給排水衛生設備 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 9 | 11　照明設備 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 10 | 11　照明設備 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 11 | 12　電気・輸送設備 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 12 | 12　電気・輸送設備 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 13 | 13　消火・防災設備 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 14 | 13　消火・防災設備 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 15 | 確認テスト | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |

| | 評価項目/割合 | | 評　価　内　容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 20 % | 授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況 |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | ①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価 |
| | 3. テストその他 | 50 % | 確認テスト、期末テストより評価 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | | |

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　　年

| 科 目 名 | 建築法規ⅡA | | | | | | | 学期 | 前　　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 吉野　由美 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 選択必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 1級建築士の資格を有し、建築会社にて設計業務に従事している。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 一級建築士建築法規の範囲を学び、法規の基本を理解する。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 一級建築士の法規を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 一級建築士の法規の試験内容を学び理解する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 総合資格学院 学科過去問スーパー7、総合資格学院　1級建築士試験 学科　ポイント整理と確認問題、総合資格学院　1級建築士試験 学科　厳選問題集500+125、建築関係法令集　法令編、その他適宜プリント配布 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 1-1　建築士法 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 2 | 1-2　建設業法 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 3 | 2-1　建築基準法　用語の定義 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 4 | 2-1　建築基準法　用語の定義 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 5 | 確認テスト① | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 6 | 2-2　確認申請等の手続き規定 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 7 | 2-2　確認申請等の手続き規定 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 8 | 2-3　防火関係規定① | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 9 | 2-3　防火関係規定② | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 10 | 確認テスト② | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 11 | 2-4　避難関係規定① | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 12 | 2-4　避難関係規定② | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 13 | 2-5　内装制限等① | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 14 | 2-5　内装制限等② | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 15 | 確認テスト③ | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |

| | 評価項目/割合 | | 評　価　内　容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 20 % | 授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況 |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | ①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価 |
| | 3. テストその他 | 50 % | 確認テスト、期末テストより評価 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | | |

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 建築構造力学ⅡA | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 竹村　哲也 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 選択必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 1級建築士の資格を有し、建築設計事務所にて設計業務に従事している。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 一級建築士建築構造（力学）の範囲を学び、構造力学の基本を理解する。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 一級建築士の構造力学を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 一級建築士の構造の試験内容を学び理解する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | TAC　1級建築士試験 学科Ⅳ新体系テキスト（構造）、TAC 過去問題集（構造）、その他適宜プリント配布 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 1-1　力のつり合い<br>1-2　安定・静定 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 2 | 1-3　静定構造物の反力 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 3 | 2-1　応力<br>2-2　静定ばりの応力計算 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 4 | 確認テスト① | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 5 | 2-3　静定ラーメンの応力計算 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 6 | 2-4　静定3ヒンジラーメンの応力計算 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 7 | 2-5　静定トラス | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 8 | 3-1　部材の性質 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 9 | 確認テスト② | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 10 | 3-2　応力度と許容応力度 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 11 | 3-3　部材の変形（たわみとたわみ角） | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 12 | 3-4　座屈<br>確認テスト③ | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 13 | 4-1　不静定構造物の応力と変形 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 14 | 4-2　耐震の基本理念 | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |
| 15 | 確認テスト④ | 【事前】 | テキストの該当範囲を読んでおくこと |
| | | 【事後】 | 課題は次の授業まで終わせること |

| | 評価項目/割合 | | 評 価 内 容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 20 % | 授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況 |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | ①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価 |
| | 3. テストその他 | 50 % | 確認テスト、期末テストより評価 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | | |

建築・デザイン 学科　　2年課程　　２　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 建築設計製図ⅡＡ | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 伏間　崇太郎 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 選択必修 | 単位数 | ２ |
| 関係実務等 | １級建築士の資格を有し、建築士事務所にて設計業務等に従事している。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 一級建築士設計製図に対応できる力を身に着ける。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 一級建築士設計製図の範囲を実践する。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 一級建築士設計製図試験の傾向と対策を学ぶ。<br>課題の読み取り、エスキス、作図、要点記述を時間管理できるようになる。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 適宜プリント配布 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | 1級建築士設計製図試験概要・時間管理等・作図練習 |
| 2 | 読み取り<br>作図トレーニング |
| 3 | エスキス①<br>作図トレーニング |
| 4 | エスキス②<br>作図トレーニング |
| 5 | エスキス③<br>作図トレーニング |
| 6 | エスキス④<br>作図トレーニング |
| 7 | 要点記述①<br>作図トレーニング |
| 8 | 要点記述②<br>作図トレーニング |
| 9 | 要点記述③<br>作図トレーニング |
| 10 | 課題1　読み取り・エスキスプロセス |
| 11 | 課題1　作図・要点記述 |
| 12 | 課題2　読み取り・エスキスプロセス |
| 13 | 課題2　作図・要点記述 |
| 14 | 課題3　読み取り・エスキスプロセス |
| 15 | 課題3　作図・要点記述 |

| | 評価項目/割合 | | 評 価 内 容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 70 % | 授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況 |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | ①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価 |
| | 3. テストその他 | 0 % | |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| | | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | | |

歯科衛生士　　学科　　3年課程　　1　　年

| 科 目 名 | 心理学ＩＡ | | | | | | | 学期 | 前　　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 山田　尚代 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 昭和56年～平成22年 歯科診療室勤務（主に歯周病患者担当） 平成22年～令和6年 高齢者施設での口腔ケア・障がい者施設での歯科診療・親子サークルでの歯磨き指導 平成20年～令和6年富山県　歯科衛生士会 会長県民の歯とお口の健康に携わる | | | | | | | | |
| 学習目的 | 人間の心理的特性や行動のメカニズムを学習する。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 心理学の基本概念やコミュニケーションの重要性を理解する。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 患者対応に必要な心理学の知識と技術を理解する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 心理学の基礎（心理学の概要と歴史） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 2 | 発達心理学（ライフステージごとの心理的変化） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 3 | 認知心理学（記憶・思考・判断の仕組み） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 4 | 感情と動機づけ（感情の働きとモチベーション） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 5 | パーソナリティ心理学（性格と行動の関係） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 6 | 対人コミュニケーション（非言語コミュニケーションを含む） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 7 | ストレスとメンタルヘルス（ストレスの影響と対処法） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 8 | 患者心理と歯科治療（歯科治療における患者の心理） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 9 | カウンセリングの基本（傾聴・共感・アドバイスの技法） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 10 | 高齢者の心理（老年期の心理的特徴とケア） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 11 | 小児の心理（子どもの発達と歯科治療の対応） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 12 | 障がい者の心理（障がいを持つ患者の心理と対応） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 13 | 医療従事者のメンタルケア（バーンアウトとセルフケア） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 14 | 歯科医療における心理学の応用（実践事例とケーススタディ） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 15 | まとめと振り返り（総復習とディスカッション） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |

| | 評価項目/割合 | | 評 価 内 容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 30 % | 提出期限を守り、指示に従った適切な内容であるかを評価する。 |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | 積極的な参加、発言、協調性、態度を重視し、学習意欲を評価する。 |
| | 3. テストその他 | 40 % | 理解度を測るための筆記試験や実技試験の得点に基づき評価する |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | | |

歯科衛生士 学科　　3年課程　　1　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 歯科診療補助論ＩＡ | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 宍戸　美千代 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 平成7年～令和7年　歯科診療所にて歯科衛生業務や歯科診療補助経験を有する。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 歯科診療補助を実施するために、基本的な知識・技術および態度を修得する。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 歯科診療補助の業務範囲について理解する。また感染予防や廃棄物の処理方法など診療室の医療安全管理について、演習（グループワーク、プレゼンテーション | | | | | | | | |
| 学習目標 | 歯科衛生士として、診療補助業務に対応できるために技術及び患者への対応を修得する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 診療補助の意義<br>ユニットの構造について（ヨシダ） | 【事前】 | |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 2 | 医療安全と感染予防 | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 3 | グローブ、マスク着脱手順、手指消毒 | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 4 | 診療室の基礎知識<br>患者対応 | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 5 | 共同動作1（概念、ポジショニング、ライティング、患者誘導） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 6 | 印象材<br>アルジネート | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 7 | 寒天、その他の印象材<br>歯肉圧排 | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 8 | 模型材（石膏） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 9 | 印象採得から模型製作 | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 10 | トリミング | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 11 | 共同動作2　バキューム操作基本（講義・ファントム） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 12 | 共同動作3　口腔内洗浄、バキューム操作（相互） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 13 | 共同動作4 | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 14 | 衛生材料 | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 15 | まとめ | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　20 % | ①宿題、課題の期限内提出 ②配布プリントや資料の整理整頓状況 |
| | 2. 授業姿勢　30 % | ①規律ある立礼、学習態度（私語、居眠り禁止）②積極的な学習参加（発言や質問）状況 ③授業準備状況（授業開始時にテキスト、機材などが整っているか） |
| | 3. テストその他　50 % | |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | |

歯科衛生士 学科　　3年課程　　1　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 歯科診療補助論ＩＢ | | | | | | | 学期 | 後　期 |
| 担当教員 | 宍戸　美千代 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 平成7年～令和7年　歯科診療所にて歯科衛生業務や歯科診療補助経験を有する。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 歯科診療補助を実施するために、基本的な知識・技術および態度を修得する。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 歯科診療補助の業務範囲について理解する。また感染予防や廃棄物の処理方法など診療室の医療安全管理について、演習（グループワーク、プレゼンテーション | | | | | | | | |
| 学習目標 | 歯科衛生士として、診療補助業務に対応できるために技術及び患者への対応を修得する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 印象採得（ファントム） | 【事前】 | |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 2 | 印象採得（ファントム） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 3 | 印象採得（ファントム） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 4 | 印象採得（ファントム） | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 5 | 相互実習 | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 6 | 相互実習 | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 7 | 相互実習 | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 8 | 相互実習 | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 9 | 相互実習 | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 10 | スタディーモデル | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 11 | スタディーモデル | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 12 | 合着材 | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 13 | 合着材 | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 14 | 仮封材 | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |
| 15 | まとめ | 【事前】 | テキストの予習 |
| | | 【事後】 | 該当範囲の復習 |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　20 % | ①宿題、課題の期限内提出 ②配布プリントや資料の整理整頓状況 |
| | 2. 授業姿勢　30 % | ①規律ある立礼、学習態度（私語、居眠り禁止） ②積極的な学習参加（発言や質問）状況 ③授業準備状況（授業開始時にテキスト、機材などが整っているか） |
| | 3. テストその他　50 % | |
| | 課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | |

歯科衛生士 学科　　3年課程　　3　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 歯科診療補助ⅢA | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 宍戸　美千代 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 履修分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 平成7年～令和7年　歯科診療所にて歯科衛生業務や歯科診療補助経験を有する。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 歯科診療補助を実施するために、基本的な知識・技術および態度を修得する。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 歯科診療で頻用される材料や器具の取り扱いについて実習する。項目によって異なりますが、模型を使用しての実習や相互実習を数回ずつ行い、技 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 歯科及び歯科衛生士の役割について理解を深めるために、学んだ知識と技術を統合して自らが学んでいける能力を構築する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | 保存修復 |
| 2 | 歯内療法 |
| 3 | 歯周外科 |
| 4 | 歯科補綴 |
| 5 | 歯科麻酔 |
| 6 | 矯正歯科 |
| 7 | 小児歯科 |
| 8 | 妊婦 |
| 9 | 高齢者 |
| 10 | 障碍者 |
| 11 | 復習 |
| 12 | 実習 |
| 13 | 実習 |
| 14 | 実習 |
| 15 | まとめ |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　　20　% | ①宿題、課題の期限内提出 ②配布プリントや資料の整理整頓状況 |
| | 2. 授業姿勢　　30 % | ①規律ある立礼、学習態度（私語、居眠り禁止） ②積極的な学習参加（発言や質問）状況 ③授業準備状況（授業開始時にテキスト、機材などが整っているか） |
| | 3. テストその他　50 % | |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | |

歯科衛生士 学科　　3年課程　　2　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 歯科診療補助ⅡB | | | | | | | 学期 | 後　期 |
| 担当教員 | 宍戸　美千代 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 履修分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 平成7年～令和7年　歯科診療所にて歯科衛生業務や歯科診療補助経験を有する。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 歯科診療補助を実施するために、基本的な知識・技術および態度を修得する。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 歯科診療で頻用される材料や器具の取り扱いについて実習する。項目によって異なりますが、模型を使用しての実習や相互実習を数回ずつ行い、技 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 歯科衛生士として、診療補助業務に対応できるために技術及び患者への対応を修得する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | 保存修復 |
| 2 | 歯内療法 |
| 3 | 歯周外科 |
| 4 | 歯科補綴 |
| 5 | 歯科麻酔 |
| 6 | 矯正歯科 |
| 7 | 小児歯科 |
| 8 | 妊婦 |
| 9 | 高齢者 |
| 10 | 障碍者 |
| 11 | 復習 |
| 12 | 実習 |
| 13 | 実習 |
| 14 | 実習 |
| 15 | まとめ |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　　20　% | ①宿題、課題の期限内提出 ②配布プリントや資料の整理整頓状況 |
| | 2. 授業姿勢　　30 % | ①規律ある立礼、学習態度（私語、居眠り禁止） ②積極的な学習参加（発言や質問）状況 ③授業準備状況（授業開始時にテキスト、機材などが整っているか） |
| | 3. テストその他　50 % | |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | |

歯科衛生士 学科　　3年課程　　3　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 歯科診療補助ⅢA | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 宍戸　美千代 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 履修分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 平成7年～令和7年　歯科診療所にて歯科衛生業務や歯科診療補助経験を有する。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 歯科診療補助を実施するために、基本的な知識・技術および態度を修得する。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 歯科診療で頻用される材料や器具の取り扱いについて実習する。項目によって異なりますが、模型を使用しての実習や相互実習を数回ずつ行い、技 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 歯科衛生士として、診療補助業務に対応できるために技術及び患者への対応を修得する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | 暫間被覆冠作製1（直接法） |
| 2 | セメント練和<br>（用途別①仮封用、②覆髄用）～受渡 |
| 3 | バキューム操作復習（相互） |
| 4 | 印象採得1　水平位操作（全顎） |
| 5 | 印象採得2（寒天印象採得） |
| 6 | ラバーダム防湿操作 |
| 7 | 口腔咽頭吸引 |
| 8 | 口腔咽頭吸引 |
| 9 | WAX・金属・セラミックス |
| 10 | ホワイトニング |
| 11 | ホワイトニング |
| 12 | 実習 |
| 13 | 実習 |
| 14 | まとめ |
| 15 | まとめ |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　　20　% | ①宿題、課題の期限内提出 ②配布プリントや資料の整理整頓状況 |
| | 2. 授業姿勢　　30 % | ①規律ある立礼、学習態度（私語、居眠り禁止） ②積極的な学習参加（発言や質問）状況 ③授業準備状況（授業開始時にテキスト、機材などが整っているか） |
| | 3. テストその他　50 % | |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | |

Webクリエイター 学科　　1　年

| 科 目 名 | カラーコーディネートＩＡ | | | | | | 学期 | 前　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 畠山　博子 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 広告代理店を経てデザイン事務所開設。グラフィックデザイナーとして活動 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 色彩科学、色彩調和などを学習しながら、色を見る力を養う | | | | | | | | |
| 学習目的 | 基本的な色彩理論を学習する | | | | | | | | |
| 学習目標 | 様々なビジネスシーンで必要となる色彩の考え方を理解し、活用できるようになる。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 色彩検定3級テキスト、色彩検定3級問題集、色彩検定過去問題集 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | 自己紹介、カラーカードを貼る |
| 2 | カラーカードを貼る |
| 3 | 実習・ポスターカラーを使う |
| 4 | 実習・ポスターカラーを使う |
| 5 | 光と色 |
| 6 | 光と色 |
| 7 | 眼のしくみ |
| 8 | 眼のしくみ |
| 9 | 混色 |
| 10 | 混色 |
| 11 | 色の三属性 |
| 12 | 色の三属性 |
| 13 | PCCSの理解と色彩調和 |
| 14 | PCCSの理解と色彩調和 |
| 15 | パーソナルカラーの基礎 |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　50 % | レポート、小テスト結果等を評価する |
| | 2. 授業姿勢　30 % | 授業規律、受講態度、積極性、質問応答等を評価する |
| | 3. テストその　20 % | 期末テスト結果を評価する |
| | 課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定･課外授業実施予定･その他 | AFT色彩検定3級<br>進行状況により変更する場合があります。 | |

Webクリエイター 学科　　1　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | カラーコーディネートＩＢ | | | | | | | 学期 | 後　期 |
| 担当教員 | 畠山　博子 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 広告代理店を経てデザイン事務所開設。グラフィックデザイナーとして活動 | | | | | | | | |
| 授業内容 | デザインをする上で目的にあった効果のあるカラーコーディネートとはどういうものかを学ぶ | | | | | | | | |
| 学習目的 | 色彩検定3級合格を目指して、色彩の基本を学習する。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 色彩検色彩とは何か、応用的な理解ができ、実戦に活かせる力をつける | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 色彩検定3級テキスト、色彩検定3級問題集、色彩検定過去問題集 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | 前期の復習 |
| 2 | 色彩心理 |
| 3 | 色彩心理 |
| 4 | 配色イメージ |
| 5 | ファッションと色彩 |
| 6 | ファッションと色彩 |
| 7 | インテリアと色彩 |
| 8 | インテリアと色彩 |
| 9 | 慣用色名 |
| 10 | 検定に向けての学習 |
| 11 | 検定に向けての学習 |
| 12 | 検定に向けての学習 |
| 13 | 検定に向けての学習 |
| 14 | ビジュアルデザインの基礎 |
| 15 | ビジュアルデザインの基礎 |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　50 % | レポート、小テスト結果等を評価する |
| | 2. 授業姿勢　30 % | 授業規律、受講態度、積極性、質問応答等を評価する |
| | 3. テストその　20 % | 模擬テスト結果等を評価する |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | AFT色彩検定3級<br>進行状況により変更する場合があります。 | |

Webクリエイター 学科　　1　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | デザイン概論ＩＡ | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 畠山　博子 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 1 |
| 関係実務等 | 広告代理店を経てデザイン事務所開設。グラフィックデザイナーとして活動 | | | | | | | | |
| 授業内容 | デザインに必要とされるデザインの基礎を学ぶ | | | | | | | | |
| 学習目的 | webデザイン、コンテンツデザイン、映像デザインのクオリティ向上につなげる | | | | | | | | |
| 学習目標 | 様々なビジネスシーンで必要となるデザインの考え方を理解し、活用できるようになる | | | | | | | | |
| 使用テキスト | なるほどデザイン、誰も教えてくれないデザインの基本 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | 身の回りのデザインを見てみる･･･基本的なデザインの話、デザインとは何か |
| 2 | レイアウトの基本･･･鉛筆、消しゴムなどを使って |
| 3 | 視覚的な表現における構成･･･揃えること、ページの分割と対比 |
| 4 | 基本的な図形による平面構成のトレーニング･･･線を使って |
| 5 | 基本的な図形による平面構成のトレーニング･･･四角形を使って |
| 6 | 基本的な図形による平面構成のトレーニング･･･円を使って |
| 7 | サンセリフの書体を活かしたデザイン |
| 8 | セリフ書体を活かしたデザイン |
| 9 | 色々な書体について |
| 10 | 色を使った平面構成のトレーニング |
| 11 | 色彩計画･･･カラーパレットの作成 |
| 12 | 動きやリズムを感じさせるデザイン･余白を活かしたデザイン |
| 13 | 色の使い方、写真とのつき合い方 |
| 14 | イラストの使い方、ダイアグラムについて |
| 15 | デザインの進め方、細部を見る大切さ |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　50 % | レポート、課題演習の結果等を評価する |
| | 2. 授業姿勢　30 % | 授業規律、受講態度、積極性、質問応答等を評価する |
| | 3. テストその　20 % | デザインする上で必要な考え方、物事の進め方、行動力などを評価する |
| | 課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定･課外授業実施予定･その他 | 進行状況により変更する場合があります。 | |

Webクリエイター　　学科　　2　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | IPデザイン実践ⅡA | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 大江孝司 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 株式会社UNISPOT　アートディレクター | | | | | | | | |
| 学習目的 | 実践的なデザイン制作を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 実案件をベースに案件理解からデザイン制作/提案まで、デザイン制作会社のクライアントワークの流れを知る | | | | | | | | |
| 学習目標 | 実践でも扱う考え方を養う。また、それに付随したWebデザインやグラフィックデザインのスキルの向上 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | なし | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | 今回制作を行う案件理解、グループに分かれコンセプトを立案する |
| 2 | 各グループでコンセプトに沿ったイメージボードを作成。ロゴデザインに着手する |
| 3 | 個人でロゴデザインを進める |
| 4 | 個人でロゴデザインを進める |
| 5 | 自分が作ったロゴをクライアントに提案する際のプレゼン資料・モックアップを作成※提出物:ロゴ提案書 |
| 6 | ロゴデザインのフィードバック。サイト制作へ移るオリエンを実施 |
| 7 | グループで3～5P程度のサイトマップとワイヤーフレームを作成 |
| 8 | ワイヤーフレームの作成。終わり次第TOPページのデザインを着手 |
| 9 | 個人でTOPページのデザインを進める |
| 10 | 個人でTOPページのデザインを進める※提出物:TOPページデザインカンプ |
| 11 | TOPページのフィードバック。内部ページデザインを着手 |
| 12 | 内部ページデザインを進める |
| 13 | レスポンシブデザインについて知る。レスポンシブデザイン制作 |
| 14 | レスポンシブデザインを進める※提出物：全ページのデザインカンプ |
| 15 | クライアントの意見も反映した、全体フィードバック |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　50 % | 課題提出<br>課題のクオリティ |
| | 2. 授業姿勢　30 % | ①欠席・遅刻がないか　②受講マナーが良好か　③クラスの授業に協力的か、④授業中に良く聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　⑤忘れ物をしない　以上の観点から評価。 |
| | 3. テストその　20 % | 課題のクオリティ等を評価する。 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 授業の進捗度・理解度等により、授業実施順番、内容を変更する場合があります。 | |

Webクリエイター 学科　　1　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | ムービー制作ＩＡ | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 浅川友希 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 大仏兄弟株式会社所属。映像やイベントの企画・製作を手掛ける。中学校・大学での講師・講演経験多数。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | iPadなどで撮影をし、まずは編集に触れてみる。その後、映像制作の企画構成を学び、撮影・編集をして動画を完成させる。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 映像制作において必要なスキルや考え方を学ぶ | | | | | | | | |
| 学習目標 | 企画構成も理解した上で映像制作に取り組み、1本映像を完成することができる。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 新版 映像制作ハンドブック | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | iPadでの映像制作(実際にiPadを使って学校内で撮影) |
| 2 | iPadでの映像制作(実際にiPadで撮影した素材を使って編集①) |
| 3 | ニュース撮影素材を使用してAdobe Premiere Proの使い方を学ぶ① |
| 4 | ニュース撮影素材を使用してAdobe Premiere Proの使い方を学ぶ② |
| 5 | 住宅CMの素材を使用して企画構成・編集を学ぶ① |
| 6 | 住宅CMの素材を使用して企画構成・編集を学ぶ② |
| 7 | 撮影について　三脚・カメラの使い方 |
| 8 | WebクリエイターPR インスタ用動画（もしくはコンテスト用短尺動画）制作　構成 |
| 9 | WebクリエイターPR インスタ用動画（もしくはコンテスト用短尺動画）制作　構成 |
| 10 | WebクリエイターPR インスタ用動画（もしくはコンテスト用短尺動画）制作　撮影 |
| 11 | WebクリエイターPR インスタ用動画（もしくはコンテスト用短尺動画）制作　撮影 |
| 12 | WebクリエイターPR インスタ用動画（もしくはコンテスト用短尺動画）制作　編集 |
| 13 | WebクリエイターPR インスタ用動画（もしくはコンテスト用短尺動画）制作　編集 |
| 14 | 発表 |
| 15 | 修正・提出 |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　50 % | 課題の提出内容を評価する |
| | 2. 授業姿勢　30 % | 積極的に授業に取り組む姿勢を評価する |
| | 3. テストその　20 % | 第14回、15回の発表、修正したものを最終提出物とし、評価する |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | ※必要に応じて、実際の現場などに参加するインターンも予定 | |

Webクリエイター 学科　　1　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | ムービー制作ＩＢ | | | | | | | 学期 | 後　期 |
| 担当教員 | 浅川友希 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | ２ |
| 関係実務等 | 大仏兄弟株式会社所属。映像やイベントの企画・製作を手掛ける。中学校・大学での講師・講演経験多数。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | カメラ・三脚で撮影をして、YouTubeに動画をアップする。また、ライブ配信の設定などを学ぶ。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 映像制作において必要なスキルや考え方を学ぶ | | | | | | | | |
| 学習目標 | 企画構成も理解した上で映像制作に取り組み、YouTubeに動画をアップできるようになる。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 新版 映像制作ハンドブック | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | ニュース撮影素材を使用してAdobe Premiere Proの使い方を学ぶ① |
| 2 | 写真撮影(実際に写真を撮影、フォトショップでの加工) |
| 3 | スマホやiPadを使用した縦動画の編集や撮影① |
| 4 | スマホやiPadを使用した縦動画の編集や撮影② |
| 5 | 撮影について　三脚・カメラの使い方、録音・音声機材の使い方 |
| 6 | WebクリエイターPR YouTube用動画制作　構成 |
| 7 | WebクリエイターPR YouTube用動画制作　構成 |
| 8 | WebクリエイターPR YouTube用動画制作　撮影 |
| 9 | WebクリエイターPR YouTube用動画制作　撮影 |
| 10 | WebクリエイターPR YouTube用動画制作　編集 |
| 11 | WebクリエイターPR YouTube用動画制作　編集 |
| 12 | WebクリエイターPR YouTube用動画制作　修正 |
| 13 | WebクリエイターPR YouTube用動画制作　完成&YouTubeについて(アップロードの仕方など) |
| 14 | 発表 |
| 15 | 修正・提出 |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1．課　題　50 % | 宿題課題提出<br>授業内の課題の取り組み |
| | 2．授業姿勢　30 % | ①欠席・遅刻がないか　②受講マナーが良好か　③クラスの授業に協力的か、④授業中に良く聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　⑤忘れ物をしない　以上の観点から評価。 |
| | 3．テストその　20 % | 最終指定課題提出 |
| | 課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | ※必要に応じて、実際の現場などに参加するインターンも予定 | |

Webクリエイター 学科　　2年課程　　2　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | ネットムービー演習ⅡA | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 宝里　均 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 有限会社サイバースクエア　代表取締役 | | | | | | | | |
| 学習目的 | クライアントの意向を理解し、目的に沿った提案をする | | | | | | | | |
| 授業内容 | 提案した内容を動画にする | | | | | | | | |
| 学習目標 | 動画編集における、企画、制作 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | どういった内容の授業なのかの説明：これから制作する動画の役割について理解する<br>班分け、メンバー内での担当者と制作内容についての設定 |
| 2 | 説明会：連携先の企業やお店から学生に、事業所の事業内容や製品について説明して貰う（日程により前後します） |
| 3 | 与えられた内容について、具体的な役割について考える（過去の動画を見て、見習うべき点と反省点を確認）<br>企業側の業種、動画によって何を得たいのかを考え、効果を感じられ目的に沿ったSNSを提案できるように学ぶ |
| 4 | 与えられた内容について、具体的な役割について考える（企業へ伺う前の準備として、どういった動画や写真が必要か：ラフ用） |
| 5 | 必要なシーンの洗い出し、絵コンテ（ラフ）作成 |
| 6 | 企業訪問（現地取材）：予め設定していた内容に沿って、取材を行う（日程により前後します） |
| 7 | 撮影した素材の整理<br>動画を掲載する媒体（SNS）と、動画の尺をヒアリングの結果、提案する（提案する理由と効果について） |
| 8 | 必要なシーンを再考する<br>企画・ラフ・絵コンテ作成 |
| 9 | 企画・ラフ・絵コンテ作成 |
| 10 | 持っている素材で動画を作る（ラフ） |
| 11 | 持っている素材で動画を作る（ラフ） |
| 12 | 持っている素材で動画を作る（ラフ） |
| 13 | 持っている素材で動画を作る（ラフ） |
| 14 | 持っている素材で動画を作る（ラフ） |
| 15 | 企業の反応と趣旨に沿っているか確認：反省会 |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1．課　題　40 % | 課題提出<br>授業内の課題の取り組み、与えられた役割に沿った制作を行っているか |
| | 2．授業姿勢　30 % | ①欠席・遅刻がないか　②受講マナーが良好か　③クラスの授業に協力的か、④授業中に良く聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　⑤忘れ物をしない　以上の観点から評価。 |
| | 3．テストその　30 % | 制作内容・発表内容　総括 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 取材及び撮影などで課外活動あり。 | |

Webクリエイター 学科　　2年課程　　2　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | ネットムービー演習ⅡB | | | | | | | 学期 | 後　期 |
| 担当教員 | 宝里均 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 有限会社サイバースクエア　代表取締役 | | | | | | | | |
| 学習目的 | クライアントの意向を理解し、目的に沿った提案をする | | | | | | | | |
| 授業内容 | 提案した内容を動画にする | | | | | | | | |
| 学習目標 | 動画編集における、企画、制作 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | 撮影する内容、役割分担、機材の選択は間違いがないか等を確認：撮影前の最終確認 |
| 2 | ★企業で撮影を行う：アポイントを行う （日程により前後します） |
| 3 | 撮影した素材を確認し、絵コンテに沿っているか等を検討 |
| 4 | ★企業で撮影を行う （日程により前後します） |
| 5 | 動画編集1 |
| 6 | 動画編集2 |
| 7 | 動画編集3 |
| 8 | 動画編集4 |
| 9 | 動画編集5 |
| 10 | 仮納品：自己チェック　企業と連絡を取り、ウェブ上でチェックして貰う |
| 11 | 仮納品：気になる点があれば修正する |
| 12 | 仮納品：気になる点があれば修正する |
| 13 | 最終納品前の確認 |
| 14 | 最終納品・報告 |
| 15 | 各班の反省会 |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1．課　題　　40 % | 課題提出<br>授業内の課題の取り組み、与えられた役割に沿った制作を行っているか |
| | 2．授業姿勢　30 % | ①欠席・遅刻がないか　②受講マナーが良好か　③クラスの授業に協力的か、④授業中に良く聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　⑤忘れ物をしない　以上の観点から評価。 |
| | 3．テストその　30 % | 制作内容・発表内容　総括 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 取材及び撮影などで課外活動あり。 | |

Webクリエイター　　学科　　1　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | UX/UIデザインＩＡ | | | | | | | 学期 | 後　期 |
| 担当教員 | 木村　嘉宏 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 1 |
| 関係実務等 | Lead Design株式会社　代表取締役 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 実践的なデザイン制作を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | デザインする上での行動心理やマーケティング知識を学ぶ | | | | | | | | |
| 学習目標 | ユーザー心理と導線を意識したデザインの制作。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | UX/UIとは （UX/UIの違い、役割、事例紹介、身の回りのUIを分析） |
| 2 | ユーザー視点を知る （ユーザー中心設計（UCD）、HCD概論、ペルソナ作成演習） |
| 3 | マーケティング基礎 （STP・4P・カスタマージャーニー、事例から戦略分析） |
| 4 | サイト設計 （サイト構造・導線設計・ナビゲーションの考え方、サイトマップ演習） |
| 5 | UIの基本設計① （ボタン、フォーム、レイアウトなどのUI要素、UIパーツ分析など） |
| 6 | UIの基本設計② （タイポグラフィ、カラー、余白の設計、UIデザイン演習） |
| 7 | XD操作基礎① |
| 8 | XD操作基礎② |
| 9 | 実践UX設計① （サービス設計、各自テーマ選定、ペルソナの設定、ワイヤーフレーム作成） |
| 10 | 実践UX設計② （サービス設計、各自テーマ選定、ペルソナの設定、ワイヤーフレーム作成） |
| 11 | 実践UIデザイン① （UIスタイルガイド、モック作成、デザイン進行） |
| 12 | 実践UIデザイン② （UIスタイルガイド、モック作成、デザイン進行） |
| 13 | 実践UIデザイン③ （UIスタイルガイド、モック作成、デザイン進行） |
| 14 | ユーザーテスト （相互レビュー＋改善案出） |
| 15 | 個別フィードバックと反省 |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　50 % | 課題提出<br>課題のクオリティ |
| | 2. 授業姿勢　30 % | ①欠席・遅刻がないか　②受講マナーが良好か　③クラスの授業に協力的か、④授業中に良く聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　⑤忘れ物をしない　以上の観点から評価。 |
| | 3. テストその　20 % | 課題のクオリティ等を評価する。 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 授業の進捗度・理解度等により、授業実施順番、内容を変更する場合があります。 | |

Webクリエイター　　学科　　2　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | UX/UIデザインⅡA | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 木村嘉宏 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 1 |
| 関係実務等 | Lead Design株式会社　代表取締役 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 実践的なデザイン制作を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | デザインの実践と分析、理解力の向上 | | | | | | | | |
| 学習目標 | チームによる制作とコミュニケーション。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | ガイダンス・UX/UI復習 （1年の学びの整理／これからの応用課題紹介） |
| 2 | 題材・課題の再設定 （行動心理・導線再考／心理効果の活用事例分析／CV導線再設計） |
| 3 | 改善演習①：既存UIの再設計 （自分で選んだUIを戦略的に改善） |
| 4 | 改善演習②：既存UIの再設計 （自分で選んだUIを戦略的に改善） |
| 5 | 改善演習③：ユーザビリティ検証 （改善案のテスト・フィードバック） |
| 6 | 上記改善案の発表＋講評 |
| 7 | チーム制作キックオフ （チーム分け／制作テーマ決定／調査・目標設定開始）<br>ユーザーリサーチ・分析 （調査の設計と実施／課題抽出／チームでユーザー分析） |
| 8 | UX戦略・導線設計 （カスタマージャーニー、導線マップ作成／UX設計ドキュメント提出） |
| 9 | UIコンセプトとスタイル定義 （トンマナ、デザインシステム整理／UIガイド作成） |
| 10 | 実践UIデザイン① （UIスタイルガイド、モック作成、デザイン進行） |
| 11 | 実践UIデザイン② （UIスタイルガイド、モック作成、デザイン進行） |
| 12 | 実践UIデザイン③ （UIスタイルガイド、モック作成、デザイン進行） |
| 13 | 実践UIデザイン④ ＆ プレゼン準備・資料作成 （提案資料、構成） |
| 14 | 最終プレゼン発表会 （チームごとに成果発表・振り返り） |
| 15 | 最終プレゼン発表会 （チームごとに成果発表・振り返り）　全体講評 |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　50 % | 課題提出<br>課題のクオリティ |
| | 2. 授業姿勢　30 % | ①欠席・遅刻がないか　②受講マナーが良好か　③クラスの授業に協力的か、④授業中に良く聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　⑤忘れ物をしない　以上の観点から評価。 |
| | 3. テストその　20 % | 課題のクオリティ等を評価する。 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 授業の進捗度・理解度等により、授業実施順番、内容を変更する場合があります。 | |

Webクリエイター 学科　　2年課程　　2　年

| 科 目 名 | 卒業制作ⅡA | | | | | | | 学期 | 前　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 宝里均 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 有限会社サイバースクエア　代表取締役 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 卒業制作に必要な準備とスキルを身につけ、自身が制作した作品の紹介 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 卒業制作に関わる技術訓練 | | | | | | | | |
| 学習目標 | Bitで学んだスキルの集大成を紹介する | | | | | | | | |
| 使用テキスト | なし | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | 卒業制作とは何か　仮想企業の設定と過去の事例に学ぶ |
| 2 | 仮想企業の設定1　：　企業規模、特徴、強みと問題点、主要サービスとメイン商品等、具体的に設定する |
| 3 | 仮想企業の設定2　：　企業・及び業界の強みと問題点、主要サービスとメイン商品：設定（課題） |
| 4 | 仮想企業の設定3　：　企業のネーミングを考える |
| 5 | ウェブデザイン準備1　同業他社のサイトを調べて、業界のサイトデザインやカラー、傾向についてまとめる（課題） |
| 6 | ウェブデザイン準備2　企業の設定を具体的に作る |
| 7 | ウェブデザイン準備3　前回の授業でまとめた内容とプロモーション方法略（課題） |
| 8 | ウェブデザイン準備4　企業サイトの基礎を学ぶ　サイトの構成について（フローチャートを作成） |
| 9 | ウェブデザイン準備5　各ページの役割について：フローチャート完成（課題） |
| 10 | ウェブデザイン準備6　SNSの種類とその役割　同業他社の調査（傾向を調べて分析する）　実際にアカウントを作る |
| 11 | ウェブデザイン　制作1　XDで表紙デザインを制作（課題） |
| 12 | ウェブデザイン　制作2　XDで表紙デザインを制作（課題） |
| 13 | ウェブデザイン　制作3　XDで下層ページをデザインを制作 |
| 14 | ウェブデザイン　制作4　XDで下層ページをデザインを制作 |
| 15 | ウェブデザイン　制作5　XDで下層ページをデザインを制作 |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　40 % | 課題提出<br>授業内の課題の取り組み |
| | 2. 授業姿勢　30 % | ①欠席・遅刻がないか　②受講マナーが良好か　③クラスの授業に協力的か、④授業中に良く聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　⑤忘れ物をしない　以上の観点から評価。 |
| | 3. テストその　30 % | 制作内容・発表内容　総括 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |

| | |
|---|---|
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 授業の進捗度・理解度等により、授業実施順番、内容を変更する場合があります。 |

Webクリエイター 学科　　2年課程　　2　年

| 科 目 名 | 卒業制作ⅡB | | | | | | | 学期 | 後　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 宝里均 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 有限会社サイバースクエア　代表取締役 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 卒業制作に必要な準備とスキルを身につけ、内容の濃い作品を制作する | | | | | | | | |
| 授業内容 | 卒業制作に関わる技術指導とアドバイス | | | | | | | | |
| 学習目標 | Bitで学んだスキルの集大成 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | なし | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | ウェブデザイン　制作6　XDでスマホの表紙デザイン |
| 2 | ウェブデザイン　制作7　XDでスマホの表紙デザイン |
| 3 | プレゼンについて1　XDからコーディングを行う |
| 4 | プレゼンについて1　XDからコーディングを行う |
| 5 | パワーポイントでの制作内容について1　絵コンテの作成(課題)　画面構成と話す内容(文章)を考える　素材収集 |
| 6 | パワーポイントでの制作内容について2　絵コンテの作成(課題)　画面構成と話す内容(文章)を考える　素材収集・発表で話す順番を組み立てる<br>順序、内容と流れを考える(自分をプレゼンするには何が必要か、効果的な手法、ダメなプレゼン) |
| 7 | 卒業制作について1　パワーポイントで制作 |
| 8 | 卒業制作について2　パワーポイントで制作 |
| 9 | 卒業制作について3　パワーポイントで制作 |
| 10 | 卒業制作について4　パワーポイントで制作 |
| 11 | 卒業制作について5　パワーポイントで制作 |
| 12 | パワーポイント最終確認 |
| 13 | 卒業制作　個別指導 |
| 14 | 卒業制作　個別指導 |
| 15 | 卒業制作　個別指導 |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　40 % | 課題提出<br>授業内の課題の取り組み |
| | 2. 授業姿勢　30 % | ①欠席・遅刻がないか　②受講マナーが良好か　③クラスの授業に協力的か、④授業中に良く聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　⑤忘れ物をしない　以上の観点から評価。 |
| | 3. テストその　30 % | 制作内容・発表内容　総括 |
| | 課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 授業の進捗度・理解度等により、授業実施順番、内容を変更する場合があります。 | |

ホテル・ブライダル 学科　　1　　年

| 科 目 名 | FB実務ＩＡ | | | | | | | 学期 | 前　　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 髙野　直人 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 1 |
| 関係実務等 | 平成9年～26年公立学校共済組合パレブラン高志会館　業務課（テーブルマナー講師・宴会レストランサービス・婚礼チーフ）・営業課（ブライダルプランナー・フロント業務・宿泊販売・営業・企画運営）にて勤務 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 食品衛生、公衆衛生、食品に関する知識について学ぶ | | | | | | | | |
| 学習目的 | 食品衛生及び公衆衛生に関する一般的な知識を習得することを目的とする | | | | | | | | |
| 学習目標 | 国家検定「レストランサービス技能検定」3級合格 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 西洋料理　料飲接遇サービス技法 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | 衛生学<br>(1)食品及び調理器具の取扱 (2)食中毒 (3)寄生虫 (4)ねずみ、ゴキブリ、はえ等 (5)腐敗及び変敗 (6)洗浄 (7)殺菌及び消毒 |
| 2 | 衛生学<br>（1）個人衛生と公衆衛生 (2)環境衛生 (3)疾病の予防 |
| 3 | 料飲概論<br>（1）食品の分類別特徴　（2）食品の管理　（3）食品の加工　（4）食品の貯蔵 |
| 4 | 料飲概論<br>（1）前菜　（2）スープ　（3）魚・甲殻・貝類　（4）家畜　（5）家禽（鶏肉）（6）野鳥獣肉　（7）野菜　（8）チーズ　（9）デザート　の概略の知識 |
| 5 | 料飲概論<br>西洋料理の基本的な料理法に関する概略な知識 |
| 6 | 料飲概論<br>飲料の種類及び特徴にの概略な知識　（1）ビール　（2）スピリッツ　（3）ブランディー　（4）ウイスキー　（5）ジン（6）ウォッカ　（7）ラム　（8）テキーラ（9）リキュール　（10）ミネラルウォーター |
| 7 | 料飲概論<br>ワインの種類及び性質の概略の知識　(1)生ワイン（スティルワイン）　(2)発泡性ワイン（スパークリングワイン）(3)酒精強化ワイン（フォーティファイド・ワイン）　(4)混成ワイン（フレーバード・ワイン） |
| 8 | 料飲概論<br>ワインの産地、特徴、品質の概略の知識　(1)フランスのワイン (2)ドイツのワイン (3)イタリアのワイン (4)アメリカのワイン (5)オーストラリアのワイン (6)その他 |
| 9 | 料飲概論<br>ぶどうの品種に関する概略の知識　(1)赤ワイン用ぶどうの品種　(2)白ワイン用ぶどうの品種 |
| 10 | サービス論<br>宴会の種類及び内容の概略の知識　　(1)晩餐 (2)昼餐 (3)ビュッフェ (4)カクテル・パーティー (5)レセプション(6)ティーパーティー (7)その他 |
| 11 | サービス論<br>宴会運営の概略な知識　(1)配置する従業員の手配　(2)家具・什器とリネンの準備 (3)付随する食品及び飲料 (4)テーブル・プランの作成 (5)客席と食器具準備 (6)受付・案内 (7)客の誘導 (8)宴会サービス |
| 12 | サービス論<br>レストランサービスの準備に関する概略の知識　(1)テーブルの準備 (2)椅子の配置 |
| 13 | サービス論<br>サービスの準備に関する概略の知識(1)フレンチ・サービス (2)ルシアン（ロシア風）サービス (3)イングリッシュ（英国風）サービス (4)アメリカン（米国風）サービス |
| 14 | サービス論<br>(1)接客マナー (2)食器の種類及び用途 (3)レストランサービスの準備及び点検 (4)客席案内 (5)注文の取り方 (6)料理の運搬方法 (7)テーブルサービス (8)食事のマナー (9)客席における調理の仕上げ (10)メニューの作成及び管理 (11)料理、食器等の異常 (12)食事の国際習慣 |
| 15 | サービス論<br>まとめ |

| | 評価項目/割合 | | 評 価 内 容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 30 % | レポート提出、授業の課題提出から評価する |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | 授業態度、積極性・協調性などから評価する |
| | 3. テストその他 | 40 % | レポート、テスト結果等を評価する |
| | 課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | | |

ホテル・ブライダル 学科　　1　　年

| 科 目 名 | FB実務ＩＢ | | | | | | | 学期 | 後　　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 髙野　直人 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 1 |
| 関係実務等 | 平成9年～26年公立学校共済組合パレブラン高志会館　業務課（テーブルマナー講師・宴会レストランサービス・婚礼チーフ）・営業課（ブライダルプランナー・フロント業務・宿泊販売・営業・企画運営）にて勤務 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 西洋料理に使用される食材や調理法および飲料の種類や特徴について学ぶ | | | | | | | | |
| 学習目的 | レストランサービスに関する一般的な知識を習得することを目的とする | | | | | | | | |
| 学習目標 | 国家検定「レストランサービス技能検定」3級合格 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 西洋料理　料飲接遇サービス技法 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | 食文化論<br>(1)食文化史と現状の食環境 (2)食の技術 (3)食文化と食事作法 |
| 2 | 食文化論<br>（４）西洋料理の変遷、特徴及び様式 |
| 3 | サービス関連知識<br>施設設備の概略の知識　(1)建築設備 (2)防災設備 (3)空気調和設備、換気設備、ダンパー等 (4)排水設備 (5)化粧室、トイレ (6)電気設備、店内照明 |
| 4 | サービス関連知識<br>遺失物への対処方法に関する概略の知識 |
| 5 | サービス関連知識<br>(1)食事サービスの遅延 (2)注文と現品の相違 (3)サービス中の粗相 |
| 6 | サービス関連知識<br>(4)料理への異物の混入 (5)食中毒 |
| 7 | サービス関連知識<br>不良客の対応に関する概略な知識 |
| 8 | サービス関連知識<br>食品衛生法関係法令のうちレストランサービスに関する一般的な知識 |
| 9 | サービス関連知識<br>レストランサービスに関する安全衛生に関する詳細な知識<br>(1)調理用器具及び機械の危険性及びこれらの取扱方法 |
| 10 | サービス関連知識<br>レストランサービスに関する安全衛生に関する詳細な知識<br>(2)安全装置、保護具の使用及び点検修理 |
| 11 | サービス関連知識<br>レストランサービスに関する安全衛生に関する詳細な知識<br>(3)作業開始前の点検 |
| 12 | サービス関連知識<br>レストランサービスに関する安全衛生に関する詳細な知識<br>( 4)レストランサービスに関し業務上発生するおそれのある災害及び疾病の原因及び防止対策 |
| 13 | サービス関連知識<br>レストランサービスに関する安全衛生に関する詳細な知識<br>(5)整理とん及び清潔の保持 |
| 14 | サービス関連知識<br>労働安全衛生関連法規のうち、レストランサービスに関する部分の詳細な知識 |
| 15 | サービス関連知識<br>労働安全衛生関連法規のうち、レストランサービスに関する部分の詳細な知識 |

| | 評価項目/割合 | | 評 価 内 容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 30 % | レポート提出、授業の課題提出から評価する |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | 授業態度、積極性・協調性などから評価する |
| | 3. テストその他 | 40 % | レポート、テスト結果等を評価する |
| | 課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | | |

ホテル・ブライダル 学科　　2　年

| 科 目 名 | FB実務ⅡA | | | | | | | 学期 | 前　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 髙野　直人 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 1 |
| 関係実務等 | 平成9年～26年公立学校共済組合パレブラン高志会館　業務課（テーブルマナー講師・宴会レストランサービス・婚礼チーフ）・営業課（ブライダルプランナー・フロント業務・宿泊販売・営業・企画運営）にて勤務 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 宴会やレストランの種類及び運営、接客マナー、テーブルサービスについて学ぶ | | | | | | | | |
| 学習目的 | 食文化に関する知識を習得することを習得することを目的とする | | | | | | | | |
| 学習目標 | 国家検定「レストランサービス技能検定」3級合格 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 西洋料理　料飲接遇サービス技法 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | サービス実習<br>接客マナー・テーブルサービス<br>正しい客席案内 |
| 2 | サービス実習<br>接客マナー・テーブルサービス<br>注文 |
| 3 | サービス実習<br>接客マナー・テーブルサービス<br>客席での販売促進 |
| 4 | サービス実習<br>接客マナー・テーブルサービス<br>オーダー |
| 5 | サービス実習<br>接客マナー・テーブルサービス<br>伝票処理 |
| 6 | サービス実習<br>接客マナー・テーブルサービス<br>セッティング |
| 7 | サービス実習<br>接客マナー・テーブルサービス<br>テーブルセット |
| 8 | サービス実習<br>接客マナー・テーブルサービス<br>料理、飲料に応じた正しい運搬 |
| 9 | サービス実習<br>接客マナー・テーブルサービス<br>料理、飲料に応じた正しいサービス |
| 10 | サービス実習<br>接客マナー・テーブルサービス<br>食器類の後片づけ |
| 11 | サービス実習<br>接客マナー・テーブルサービス<br>突発事態に対する対処 |
| 12 | サービス実習<br>接客マナー・テーブルサービス<br>テーブルの後片付け |
| 13 | テーブルマナー研修 |
| 14 | テーブルマナー研修 |
| 15 | テーブルマナー研修 |

| | 評価項目/割合 | | 評 価 内 容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 30 % | レポート提出、授業の課題提出から評価する |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | 授業態度、積極性・協調性などから評価する |
| | 3. テストその他 | 40 % | レポート、テスト結果等を評価する |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | | |

ホテル・ブライダル 学科　　2　年

| 科 目 名 | FB実務ⅡB | | | | | | | 学期 | 後　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 髙野　直人 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 選択必修 | 単位数 | 1 |
| 関係実務等 | 平成9年～26年公立学校共済組合パレブラン高志会館　業務課（テーブルマナー講師・宴会レストランサービス・婚礼チーフ）・営業課（ブライダルプランナー・フロント業務・宿泊販売・営業・企画運営）にて勤務 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 地域の食材を使用したメニュー開発や調理サービス方法、実務を学ぶ | | | | | | | | |
| 学習目的 | 接客マナー、テーブルサービス方法、実務を学ぶ | | | | | | | | |
| 学習目標 | 「食」に関するイベントの企画・運営 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | メニュー考案　・市場調査　・コンセプト |
| 2 | メニュー考案　・提案書作成 |
| 3 | 提案書の発表 |
| 4 | レストラン運営　・商品化計画 |
| 5 | 苦情処理　・料飲接遇サービスにおける苦情処理 |
| 6 | 苦情処理　・受客の拒否　・スキッパーなど |
| 7 | レストラン運営　・セールス　・販売促進、広報 |
| 8 | サービス実技トレーニング シミュレーション |
| 9 | サービス実技トレーニング シミュレーション |
| 10 | 「食」のイベント リハーサル |
| 11 | 「食」のイベント開催 |
| 12 | 「食」のイベント開催 |
| 13 | 「食」のイベント開催 |
| 14 | 「食」のイベント開催 |
| 15 | イベント振返り |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　30 % | 「食」のイベントに向けての準備資料、アイデア等からの企画書、提案書から評価する |
| | 2. 授業姿勢　30 % | 授業態度、積極性・協調性などから評価する |
| | 3. テストその他　40 % | レポート、テスト結果等を評価する |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | |

ホテル・ブライダル 学科　　1　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | ホテル概論ＩＡ | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 髙野　直人 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 平成9年～26年公立学校共済組合パレブラン高志会館　業務課（テーブルマナー講師・宴会レストランサービス・婚礼チーフ）・営業課（ブライダルプランナー・フロント業務・宿泊販売・営業・企画運営）にて勤務 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 宿泊産業の中のホテルについて、現場で実際に起こる事例を交え歴史（外国、日本）、種類、社会的役割、構成内容（部門別）、専門用語の理解などホテル産業に携わるための知識を習得 | | | | | | | | |
| 学習目的 | ホテル産業の基礎的知識を学習する | | | | | | | | |
| 学習目標 | 今後さらにグローバル化する地域、社会におけるホテル産業の重要性とホテルの宿泊、料飲、宴会、調理各部門（すなわち営業部門）を具体的に理解する | | | | | | | | |
| 使用テキスト | ホテルビジネス基礎編 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 第1章 ホテルの基礎<br>ホテルとは | 【事前】 | ホテル産業について予習 |
| | | 【事後】 | ホテル調査 |
| 2 | 第1章 ホテルの基礎　欧米の歴史 | 【事前】 | 欧米のホテルの歴史について |
| | | 【事後】 | ホテル調査のレポート提出 |
| 3 | 第1章 ホテルの基礎　日本の発展史 | 【事前】 | 日本のホテル発展史 |
| | | 【事後】 | 課題提出 |
| 4 | 第1章 ホテルの基礎　国際儀礼の基本 | 【事前】 | プロトコール |
| | | 【事後】 | 課題提出 |
| 5 | 第1章 ホテルの基礎　ホスピタリティマインド | 【事前】 | ホテル調査 |
| | | 【事後】 | レポート提出 |
| 6 | 第1章 ホテルの基礎　ホテル関連知識 | 【事前】 | 第１章ホテルの基礎 まとめ |
| | | 【事後】 | 検定試験問題集による小テスト |
| 7 | 第2章 宿泊部門の業務 宿泊部門の概要 | 【事前】 | 宿泊部門の概要 |
| | | 【事後】 | 課題提出 |
| 8 | 第2章 宿泊部門の業務　宿泊商品の特性 | 【事前】 | 宿泊部門の特性 |
| | | 【事後】 | 課題提出 |
| 9 | 第2章 宿泊部門の業務　担当者業務 | 【事前】 | 第2章宿泊部門 まとめ |
| | | 【事後】 | 検定試験問題集による小テスト |
| 10 | 第2章 宿泊部門の業務　まとめ | 【事前】 | 第1章・2書のまとめ |
| | | 【事後】 | 課題提出 |
| 11 | 第3章 料飲部門の業務 料飲部門の特性 | 【事前】 | 料飲部門の特性 |
| | | 【事後】 | 課題提出 |
| 12 | 第3章 料飲部門の業務 料飲部門の担当業務 | 【事前】 | 料飲部門の実務 |
| | | 【事後】 | ホテル・旅館調査 |
| 13 | 第3章 料飲部門の業務 料飲実務の実務 | 【事前】 | 料飲部門の実務 |
| | | 【事後】 | 小テスト |
| 14 | 第3章 料飲部門の業務 料飲実務の実務 | 【事前】 | 料飲部門の実務 |
| | | 【事後】 | レポート提出 |
| 15 | 第3章 料飲部門の業務 第3章のまとめ | 【事前】 | 料飲部門のまとめ |
| | | 【事後】 | 期末テスト |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　30 % | ホテル業界の理解、ホテルの基礎の習得、ホテルに関する調査レポート・授業の課題提出 |
| | 2. 授業姿勢　30 % | 集中力、社会人予備軍としてのマナー、態度を重視ー私語、居眠り、姿勢（たとえば見えないと思って靴を脱いだり、脚を組んだりした緊張のない姿勢は失格）などを重視 |
| | 3. テストその他　40 % | 筆記文によるテストは読む人にわかり易く、誤字脱字がないように読み返す気配りがある学生 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |

| | |
|---|---|
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 校外実地見学・研修等を経験（見る・聞く・行う）することによって、ホテルサービスに関する初歩的業務機能を実践的に学ぶことが可能。<br>そのことを踏まえて「ホテルビジネス検定試験：ベーシック2級」の合格を目指した効果的対応を図る。 |

ホテル・ブライダル 学科　　1　年

| 科 目 名 | ホテル概論ＩＢ | | | | | | | 学期 | 後　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 髙野　直人 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 平成9年～26年公立学校共済組合パレブラン高志会館　業務課（テーブルマナー講師・宴会レストランサービス・婚礼チーフ）・営業課（ブライダルプランナー・フロント業務・宿泊販売・営業・企画運営）にて勤務 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 宿泊産業の中のホテルについて、現場で実際に起こる事例を交え歴史（外国、日本）、種類、社会的役割、構成内容（部門別）、専門用語の理解などホテル産業に携わるための知識を習得 | | | | | | | | |
| 学習目的 | ホテル産業の基礎的知識を学習する | | | | | | | | |
| 学習目標 | ホテルに関する基礎知識を習得し、学期後半に「ホテルビジネス実務検定ベーシック2級」に合格する | | | | | | | | |
| 使用テキスト | ホテルビジネス基礎編 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 第4章 宴会部門の業務　宴会商品の特性 | 【事前】 | 宴会部門の特性 |
| | | 【事後】 | 課題提出 |
| 2 | 第4章 宴会部門の業務　宴会部門の組織 | 【事前】 | 宴会部門の組織と業務役割 |
| | | 【事後】 | 小テスト |
| 3 | 第4章 宴会部門の業務 宴会部門の業務 | 【事前】 | ホテル・旅館調査 |
| | | 【事後】 | 課題提出 |
| 4 | 第4章 宴会部門の業務 宴会部門の実務 | 【事前】 | 宴会部門の組織と業務役割 |
| | | 【事後】 | 小テスト |
| 5 | 第4章 宴会部門の業務　宴会部門の実務 | 【事前】 | 宴会部門の実務 |
| | | 【事後】 | 課題提出 |
| 6 | 第4章 宴会部門の業務 まとめ　宴会部門の実務 | 【事前】 | 宴会部門の担当者業務 |
| | | 【事後】 | 小テスト |
| 7 | 第4章 宴会部門の業務 まとめ | 【事前】 | 第3章・4章まとめ |
| | | 【事後】 | |
| 8 | 第5章 調理部門の業務 調理部門の特性 制約要件からくる特性 | 【事前】 | 調理部門の特性 |
| | | 【事後】 | 課題提出 |
| 9 | 第5章 調理部門の業務 調理部門の特性 メニュー開発・経費から見たの特性 | 【事前】 | ホテル・旅館調査 |
| | | 【事後】 | レポート提出 |
| 10 | 第5章 調理部門の業務 調理部門の組織と業務役割 調理部門の組織 | 【事前】 | 調理部門の組織 |
| | | 【事後】 | 小テスト |
| 11 | 第5章 調理部門の業務 調理部門の組織と業務役割 料理部門の業務 | 【事前】 | メイン・宴会・レストラン・製菓の各業務 |
| | | 【事後】 | 課題提出 |
| 12 | 第5章 調理部門の業務 調理部門の実務 調理の種類・施設・設備・備品の知識 | 【事前】 | ホテル・旅館調査 |
| | | 【事後】 | レポート提出 |
| 13 | 第5章 調理部門の業務 調理部門の実務 西洋料理の基礎知識 | 【事前】 | 西洋料理の基礎知識 |
| | | 【事後】 | 小テスト |
| 14 | 第5章 調理部門の業務 担当業務 西洋料理の主な担当者業務 | 【事前】 | 西洋料理の主な担当者業務 |
| | | 【事後】 | 課題提出 |
| 15 | 第5章 調理部門の業務 担当業務 西洋料理の主な担当者業務 | 【事前】 | 西洋料理の主な担当者業務 |
| | | 【事後】 | 期末テスト |

| 評価基準 | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| | 1. 課　題　30 % | ホテル業界の理解、ホテルの基礎の習得、ホテルに関する調査レポート・授業の課題提出 |
| | 2. 授業姿勢　30 % | 集中力、社会人予備軍としてのマナー、態度を重視＝私語、居眠り、姿勢（たとえば見えないと思って靴を脱いだり、脚を組んだりしたした緊張のない姿勢は失格）などを重視 |
| | 3. テストその他　40 % | 筆記文によるテストは読む人にわかり易く、誤字脱字がないように読み返す気配りがある学生 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |

| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 校外実地見学・研修等を経験（見る・聞く・行う）することによって、ホテルサービスに関する初歩的業務機能を実践的に学ぶことが可能。<br>そのことを踏まえて「ホテルビジネス検定試験：ベーシック2級」の合格を目指した効果的対応を図る。 |
|---|---|

ホテル・ブライダル 学科　　2　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | サービス接遇ⅡA | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 髙野　直人 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 1 |
| 関係実務等 | 平成9年～26年公立学校共済組合パレブラン高志会館　業務課（テーブルマナー講師・宴会レストランサービス・婚礼チーフ）・営業課（ブライダルプランナー・フロント業務・宿泊販売・営業・企画運営）にて勤務 | | | | | | | | |
| 授業内容 | ホテル業界・ブライダル業界で必要な顧客に満足を与える行動をサービス接遇の観点から学ぶ | | | | | | | | |
| 学習目的 | ホテル業界・ブライダル業界で必要なサービス接遇の心構えを学習する | | | | | | | | |
| 学習目標 | ホテル業界・ブライダル業界で必要なサービス接遇の知識と行動基本姿勢を理解する | | | | | | | | |
| 使用テキスト | サービス接遇検定受験ガイド準1級級 サービス接遇検定受験ガイド1級 サービス接遇検定実問題集1-2級 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | 準1級 接客応答 |
| 2 | 準1級 接客応答 |
| 3 | 準1級 接客応答 |
| 4 | 準1級 接客対応 |
| 5 | 準1級 接客対応 |
| 6 | 準１級検定対策総仕上げ |
| 7 | １級 サービススタッフの資質 |
| 8 | １級 専門知識（サービス知識） |
| 9 | １級 専門知識（サービス知識） |
| 10 | Ｏ級 専門知識（従業知識） |
| 11 | １級 対人技能（人間関係ほか） |
| 12 | １級 対人技能（接遇知識ほか） |
| 13 | １級 一般知識（社会常識） |
| 14 | １級 実務技能　（問題処理ほか） |
| 15 | １級 実務技能　　（金品搬送ほか） |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　30 % | 実習課題の取り組み姿勢 |
| | 2. 授業姿勢　30 % | 出席状況・授業態度・言葉遣い |
| | 3. テストその他　40 % | 実技試験と期末試験の総合判定 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | |

医療事務 学科　　1　　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 医療保険制度ＩＡ | | | | | | | 学期 | 前　　期 |
| 担当教員 | 中村　洋子 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 選択必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 平成12年～平成22年　クリニック、総合病院にてレセプト作成業務を担当 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 病院の概要や医療保険制度の仕組み、規則、各種制度など、医療機関での仕事に携わるために必要な専門知識を学ぶ | | | | | | | | |
| 授業内容 | 医療現場での請求事務の流れは意義などについて学ぶ | | | | | | | | |
| 学習目標 | 医療保険制度や請求事務などについて理解する | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 医科テキスト1、2、3　医科サポートブック　医科トレーニングブック　医科問題集　電卓 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | 病院の概要 |
| 2 | 病院の組織とスタッフ |
| 3 | 医事部門のあらまし |
| 4 | 医療保険の種類 |
| 5 | 保険給付の種類 |
| 6 | 保険外併用療養費 |
| 7 | 長寿医療制度 |
| 8 | 給付の種類 |
| 9 | 高額療養費とは |
| 10 | 受付、カルテ管理 |
| 11 | 料金計算 |
| 12 | 個別出来高払い方式 |
| 13 | 請求事務 |
| 14 | レセプト作成のルール |
| 15 | 医事担当者の心構え 守秘義務 |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　40 % | ①宿題、課題の期限内提出 ②配布プリントや資料の整理整頓状況 |
| | 2. 授業姿勢　30 % | ①規律ある立礼、学習態度（私語、居眠り禁止） ②積極的な学習参加（発言や質問）状況 ③授業準備状況（授業開始時にテキスト、電卓等が机上に整っているか） |
| | 3. テストその他　30 % | ①小テスト ②修了試験 |
| | 課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 医療事務管理士技能認定試験テキストの改定や学生の理解度状況により授業進度、内容を変更する場合があります | |

医療事務 学科　　1　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 診療報酬請求（医科）基礎ＩＡ | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 中村　洋子 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 5 |
| 関係実務等 | 平成12年～平成22年　クリニック、総合病院にてレセプト作成業務を担当 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 現場での実践を想定して診療報酬の算定とレセプト作成方法を学ぶ | | | | | | | | |
| 学習目的 | 診療報酬点数の仕組みと算定方法について学習する | | | | | | | | |
| 学習目標 | 点数算定技能を身に付け、カルテの内容や診療報酬の仕組みを理解する | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 医科テキスト1、2、3　医科サポートブック　医科トレーニングブック　医科問題集　電卓 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | 点数算定の原則 |
| 2 | 診察料 |
| 3 | 医学管理等 |
| 4 | 在宅医療 |
| 5 | 投薬 |
| 6 | 注射 |
| 7 | 処置 |
| 8 | リハビリテーション |
| 9 | 検査 |
| 10 | 病理診断 |
| 11 | 手術 |
| 12 | 麻酔 |
| 13 | 画像診断 |
| 14 | 入院料 |
| 15 | 入院料 |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1．課　題　40 % | ①宿題、課題の期限内提出　②配布プリントや資料の整理整頓状況 |
| | 2．授業姿勢　30 % | ①規律ある立礼、学習態度（私語、居眠り禁止）　②積極的な学習参加（発言や質問）状況　③授業準備状況（授業開始時にテキスト、電卓等が机上に整っているか） |
| | 3．テストその他　30 % | ①小テスト　②修了試験 |
| | 課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | | |

診療情報管理士研究 学科　　1　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 分類法ⅢA | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 奥村　通子 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 平成20年～平成27年　富山大学医学部附属病院勤務　診療情報管理士室所属 | | | | | | | | |
| 授業内容 | ICD-10の仕組みを理化し、使用に際しての各章の特徴や留意事項を理解し、各章ごとの基本コーディングを習得する。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 現場での実践を想定したICD-10コーディング技術、それに関連する腫瘍の分類コードを学ぶ。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 各章の構成、各疾患の特徴を習得し国際疾病分類の仕組みを理解し、「内容例示表」「索引表」のルールを理解し、適切な疾病分類が出来る。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 診療情報管理Ⅳ（専門・分類法編）、診療情報管理士教育問題集（専門・分類法編）、ICD-10 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | コーディングの目的・注意事項・ルール及びシステム整備の条件・ICDを用いる注意事項 |
| 2 | 複数病態分類・複合病態分類・二十分類、用語の定義・索引表の構造・傷病名の構成 |
| 3 | コーディング全般にわたるガイドライン コーディング演習１（第1章：感染症・寄生虫症） |
| 4 | コーディング演習2（第Ⅲ章：血液・造血器・免疫機構の障害、第Ⅳ章：内分泌・栄養・代謝） |
| 5 | コーディング演習3（第Ｖ章：精神・行動の障害、第Ⅵ：神経系の疾患、第Ⅶ章：眼・附属器の疾患） |
| 6 | コーディング演習4（第Ｖ章：精神・行動の障害、第Ⅵ：神経系の疾患、第Ⅶ章：眼・附属器の疾患） |
| 7 | コーディング演習5（第Ⅷ章：耳・乳突起の疾患、第Ⅸ:循環器系の疾患、第Ｘ章：呼吸器系の疾患） |
| 8 | コーディング演習6（第Ⅷ章：耳・乳突起の疾患、第Ⅸ:循環器系の疾患、第Ｘ章：呼吸器系の疾患） |
| 9 | コーディング演習7（第ＸⅠ章：消化器系の疾患、第ＸⅡ章：皮膚・皮下組織の疾患、第ＸⅢ章：呼吸器系の疾患） |
| 10 | コーディング演習8（第ＸⅠ章：消化器系の疾患、第ＸⅡ章：皮膚・皮下組織の疾患、第ＸⅢ章：呼吸器系の疾患） |
| 11 | コーディング演習9（第ＸⅠ章：消化器系の疾患、第ＸⅡ章：皮膚・皮下組織の疾患、第ＸⅢ章：呼吸器系の疾患） |
| 12 | コーディング演習10（第ＸⅣ章：腎尿路生殖器系の疾患、第ＸⅦ章：先天奇形・変形・染色体異常） |
| 13 | コーディング演習11（第ＸⅣ章：腎尿路生殖器系の疾患、第ＸⅦ章：先天奇形・変形・染色体異常、第ＸⅧ：症状・徴候・異常所見・異常検査所見で他に分類されないもの） |
| 14 | コーディング演習12（第Ⅱ章：新生物） |
| 15 | コーディング演習13（第Ⅱ章：新生物） |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1．課　題　30 % | 課題の提出　期限　完成度を考慮する　小テストの評価 |
| | 2．授業姿勢　30 % | 積極的に授業に参加する姿勢 |
| | 3．テストその他　40 % | 修了試験 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 診療情報管理士認定試験（2月） | |

診療情報管理士研究 学科　　1　年

| 科 目 名 | 分類法ⅢB | | | | | | | 学期 | 後　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 奥村　通子 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 1 |
| 関係実務等 | 平成20年～平成27年　富山大学医学部附属病院勤務　診療情報管理士室所属 | | | | | | | | |
| 授業内容 | ICD-10の仕組みを理化し、使用に際しての各章の特徴や留意事項を理解し、各章ごとの基本コーディングを習得する。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 現場での実践を想定したICD-10コーディング技術、それに関連する腫瘍の分類コードを学ぶ。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 各章の構成、各疾患の特徴を習得し国際疾病分類の仕組みを理解し、「内容例示表」「索引表」のルールを理解し、適切な疾病分類が出来る。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 診療情報管理Ⅳ（専門・分類法編）、診療情報管理士教育問題集（専門・分類法編） | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | コーディング演習1（第ＸＶ章：妊娠・分娩・産褥） |
| 2 | コーディング演習2（第ＸⅥ周産期に発生した病態） |
| 3 | コーディング演習3（第ＸⅨ章：損傷・中毒・その他の外因の影響） |
| 4 | コーディング演習4（第ＸＸ章：障害及び死亡の外因、第ＸＸＩ章：健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用） |
| 5 | コーディング演習5（第Ⅰ章、第Ⅲ章、第Ⅳ章） |
| 6 | コーディング演習6（第Ⅴ章、第Ⅵ章、第Ⅶ章） |
| 7 | コーディング演習7（第Ⅷ章、第Ⅸ章、第Ⅹ章） |
| 8 | コーディング演習8（第ＸⅠ章、第ＸⅡ章、第ＸⅢ章） |
| 9 | コーディング演習9（第ＸⅣ章、第ＸⅦ章、第ＸⅧ章） |
| 10 | コーディング演習10（第ＸＸⅠ章、第Ⅱ章） |
| 11 | コーディング演習11（第ＸＶ章、第ＸⅥ章） |
| 12 | コーディング演習12（第ＸⅨ章、第ＸＸ章） |
| 13 | コーディング演習13（原死因コーディング） |
| 14 | コーディング演習14(主要病態の選択、全体の補足） |
| 15 | コーディング演習15（全体の補足） |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1．課　題　30 % | 課題の提出　期限　完成度を考慮する　小テストの評価 |
| | 2．授業姿勢　30 % | 積極的に授業に参加する姿勢 |
| | 3．テストその他　40 % | 修了試験 |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 診療情報管理士認定試験（2月） | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 情報ビジネス | 学科 | 2年課程 | | 2 | 年 | | | | |
| 科 目 名 | デジタルマーケティングⅡA | | | | | 学期 | 前 | 期 | |
| 担当教員 | 早水　由樹 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 1 |
| 関係実務等 | 情報産業企業、コンサル業務も行う会社経営においてデジタルマーケティング実績を積んでいる。富山県よろず支援拠点相談員としてマーケティング領域のアドバイス業務にも従事 | | | | | | | | |
| 学習目的 | WEBの基礎知識およびインターネットマーケティングの知識と運用方法を学び、企業の経営戦略と連動したWEBブランディング力を身につける。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | ケーススタディを通じて、企業における新規顧客獲得のためのインターネットマーケティング業務に必要とされる知識と運用方法を学ぶ。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | ネットマーケティングの運用担当者としての実践的な技術習得を目指す。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 授業時に配布 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | 現代のインターネットマーケティング(google、各種SNS) |
| 2 | インスタグラムを使ったマーケティング①　アカウント考察(ペルソナ、競合優位性、投稿コンセプト、頻度) |
| 3 | インスタグラムを使ったマーケティング②　機能面を知る(フィード投稿、リール投稿、ストーリーズ、ハイライト) |
| 4 | 画像加工、動画加工アプリ |
| 5 | canvaを活用した投稿づくり① |
| 6 | canvaを活用した投稿づくり② |
| 7 | 実践テーマのヒヤリング(顧客理解⑥　校外学習)の振り返り。情報整理 |
| 8 | 顧客理解⑦⑧　インスタ設計　連結授業 |
| 9 | 顧客理解⑦⑧　インスタ設計　連結授業 |
| 10 | 顧客理解⑨　連結授業　店舗への提案資料作成 |
| 11 | 店舗への提案を経て、実践内容の調整 |
| 12 | 顧客理解⑪⑫と連動　インスタ投稿実践 |
| 13 | インサイト考察・まとめの作成 |
| 14 | 実践テーマ店への報告　※校外学習 |
| 15 | 最終成果物発表 |

| | 評価項目/割合 | | | 評 価 内 容 |
|---|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 40 | % | 提出物の内容、期限内提出、協働作業時の貢献 |
| | 2. 授業姿勢 | 30 | % | 出席率、受講マナー、聞き方、質問・発言 |
| | 3. テストその他 | 30 | % | 最終成果物発表、学習成果総括レポート |
| | 課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 外部関係者との調整により授業内容が変更・前後することがあります | | | |

情報ビジネス 学科　　2年課程　　1　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 顧客理解ＩＡ | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 早水　由樹 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 情報産業企業、コンサル業務も行う会社経営においてデジタルマーケティング実績を積んでいる。富山県よろず支援拠点相談員としてマーケティング領域のアドバイス業務にも従事 | | | | | | | | |
| 学習目的 | WEB上での検討行動の探求・分析を通じて、ロイヤル顧客づくりのための新しい価値・サービスの提案力を身につける。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 顧客理解の重要性を認識し、実在する企業をモデルにした演習を通じて実践的な活用方法を習得する。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 顧客理解の考え方を知る。顧客管理ツールの使い方の習得と分析スキルの獲得。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 未定 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>顧客とビジネス　現代のターゲット設定(ペルソナ)とは？ | 【事前】 | |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 2 | 実在企業のペルソナを想像する | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 3 | 射水市の好きなお店(BtoC)を洗い出そう【宿題あり】<br>・依頼文の作成<br>・依頼する上での注意点 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 4 | 実践テーマ店の研究①<br>・特徴、強み、競合、ペルソナの想像<br>・リーダー、副リーダーの決定 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 5 | 実践テーマ店の研究②<br>・インスタの使用状況考察 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 6 | 実践テーマ店のヒヤリング　※校外学習<br>・店舗の想い、在りたい姿、目標(短期・中期・長期)、特徴、強み、競合、ペルソナ<br>・やりとりの手段 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 7 | 実践テーマ店のインスタ設計①<br>・ヒヤリング内容から修正<br>・アカウント開設　・名前、プロフィール　・掲載する内容(フィード、リール) | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 8 | 実践テーマ店のインスタ設計②<br>・ハッシュタグ、ストーリーズ、ハイライト、何を広告するか、ざっくりとしたスケジュール | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 9 | 実践テーマ店のインスタ設計③<br>・店舗への提案書の作成 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 10 | 実践テーマ店へのプレゼンテーション　※校外学習<br>写真素材集め | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 11 | インスタ投稿実践① | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 12 | インスタ投稿実践②　広告 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 13 | まとめ作成 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 14 | ふり返り | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 15 | 最終成果物発表,取り組み発表会 | 【事前】 | それまでの講義をふりかえり、不明瞭な点をチェックし、講師に質疑できるよう準備しておく |
| | | 【事後】 | 全講義を通して学んだこと、身につけたことを整理する |

| | 評価項目/割合 | | 評 価 内 容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 40 % | 提出物の内容、期限内提出、協働作業時の貢献 |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | 出席率 、受講マナー、聞き方、質問・発言 、忘れ物の有無 |
| | 3. テストその他 | 30 % | 最終成果物発表、学習成果総括レポート |
| | 課題･テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |

| | |
|---|---|
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 外部関係との調整により授業内容が変更・前後することがあります |

情報ビジネス 学科　　2年課程　　2　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 地域経済の作り方ⅡA | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 大石　和 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 青果卸売企業勤務後、農業・小売・食を専門分野とする流通業や飲食業界向けコンサルタント業務を実施。県内若手起業家や経営者とのネットワークを有する。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 地域で活躍する若手経営者へのインタビューを通して、地域課題に取り組むリーダーシップのあり方を知る | | | | | | | | |
| 授業内容 | 地域課題をビジネスとして事業化し解決する若手経営者へのインタビューを通じて、リーダーシップの取り方とアントレプレナーシップを学ぶ | | | | | | | | |
| 学習目標 | アントレプレナーの姿を通じて、富山の喫緊の課題を知り、課題解決を推進するリーダーシップのマインドを獲得する | | | | | | | | |
| 使用テキスト | なし | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | イントロダクション：地域課題とリーダーシップ | 【事前】 | |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 2 | 地域課題に取り組む地域リーダー・リサーチ① | 【事前】 | 新聞記事などのメディアから、地域課題に取り組むリーダーの情報を収集する |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 3 | 地域課題に取り組む地域リーダー・リサーチ② | 【事前】 | 新聞記事などのメディアから、地域課題に取り組むリーダーの情報を収集する |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 4 | 質問事項整理 | 【事前】 | 新聞記事などのメディアから、地域課題に取り組むリーダーの情報を収集する |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 5 | 訪問インタビューの依頼文書作成 | 【事前】 | 新聞記事などのメディアから、地域課題に取り組むリーダーの情報を収集する |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 6 | インタビュー事前準備 | 【事前】 | 新聞記事などのメディアから、地域課題に取り組むリーダーの情報を収集する |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 7 | 現地訪問・インタビュー実施 | 【事前】 | 新聞記事などのメディアから、地域課題に取り組むリーダーの情報を収集する |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 8 | インタビューまとめ・発表 | 【事前】 | 新聞記事などのメディアから、地域課題に取り組むリーダーの情報を収集する |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 9 | インタビュー事前準備 | 【事前】 | 新聞記事などのメディアから、地域課題に取り組むリーダーの情報を収集する |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 10 | 現地訪問・インタビュー実施 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 11 | インタビューまとめ・発表 | 【事前】 | 新聞記事などのメディアから、地域課題に取り組むリーダーの情報を収集する |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 12 | インタビュー事前準備 | 【事前】 | 新聞記事などのメディアから、地域課題に取り組むリーダーの情報を収集する |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 13 | 現地訪問・インタビュー実施 | 【事前】 | 新聞記事などのメディアから、地域課題に取り組むリーダーの情報を収集する |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 14 | インタビューまとめ・発表 | 【事前】 | 新聞記事などのメディアから、地域課題に取り組むリーダーの情報を収集する |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 15 | 学習の振り返り、まとめ | 【事前】 | それまでの講義をふりかえり、不明瞭な点をチェックし、講師に質疑できるよう準備しておく |
| | | 【事後】 | 全講義を通して学んだこと、身につけたことを整理する |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　50 % | 提出物の内容、期限内提出、インタビューの出来、協働作業時の貢献 |
| | 2. 授業姿勢　30 % | 出席率 、受講マナー、聞き方、質問・発言 、忘れ物の有無 |
| | 3. テストその他　20 % | 学習成果総括レポート |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 外部関係部署との調整により授業内容が前後することがあります | |

ホテル・ブライダル学科・情報ビジネス学科（合同）学科　　2年課程　　2　年

| 科 目 名 | オンライン国際協働学習ⅡA | | | | | | | 学期 | 後　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 大石和（25コマ） Lyu Edward | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 青果卸売企業勤務後、農業・小売・食を専門分野とする流通業や飲食業界向けコンサルタント業務を実施。県内若手起業家や経営者とのネットワークを有する。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | ①異文化理解②英語コミュニケーション力向上③プレゼンテーション力向上④企画、提案力向上 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 海外の学生と、共通のテーマで課題解決を実施し、企画案をプレゼンテーションする（英語使用） | | | | | | | | |
| 学習目標 | 国際交流の場で英語で相手の話を理解できる。自分の考えを海外の学生に伝えることができる。海外の学生の異なる視点や考えを知る。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 授業時に資料を配布 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | 学内　イントロダクション:国際交流準備 |
| 2 | With The World　海外生とアイスブレーク、自己紹介、地域の紹介 |
| 3 | 学内　テーマに基づいたインタビュー項目と質問文作成　※この期間に相互に試食 |
| 4 | 学内　テーマに基づいたインタビュー項目と質問文作成　※この期間に相互に試食 |
| 5 | With The World　海外生へインタビュー |
| 6 | 学内　企業向けに商品提案作成　併行し海外生も商品提案作成（役割分担） |
| 7 | 同上 |
| 8 | With The World　商品提案① |
| 9 | 学内　商品提案①にもとづいたブラッシュアップ　併行し海外生も商品提案作成（役割分担） |
| 10 | 同上 |
| 11 | With The World　商品提案② |
| 12 | 学内　商品提案②にもとづいたブラッシュアップ　併行し海外生も商品提案作成（役割分担） |
| 13 | 同上 |
| 14 | With The World　企業への最終プレゼンテーション |
| 15 | 学習ふりかえり② |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　40 % | 提出物の内容、期限内提出、協働作業時の貢献 |
| | 2. 授業姿勢　30 % | 出席率 、受講マナー、聞き方、質問・発言 、忘れ物の有無 |
| | 3. テストその他　30 % | 最終成果物発表内容、学習成果総括レポート |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 外部関係部署との調整により授業内容が前後することがあります | |

情報ビジネス 学科　　2年課程　　2　年

| 科 目 名 | 情報リテラシーⅡA | | | | | | | 学期 | 後　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 浅林　孝志 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 長期にわたる銀行業務の中で、個人情報管理の経験も重ね、かつ、多様な業界・企業における情報リテラシーの在り方や課題についても見識を持つ。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 情報取り扱いに関わる法律や著作権の意義、仕組みを理解し、情報を扱う職業人としてのリテラシーを高める | | | | | | | | |
| 授業内容 | 個人情報、企業機密データ、著作物の適切な取り扱いについての基本的な知識を学ぶ。事例学習を通じて、実践的な対応についても理解を深める。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | 企業や個人情報を取り扱う際に必要となる法規や社会規範を理解している。データや著作権を適正に取り扱う手順を理解している。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 未定 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | イントロダクション | 【事前】 | |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 2 | 個人情報保護法の理解 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 3 | 個人情報に関連する事件・事故 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 4 | 個人情報に関連する事件・事故 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 5 | 個人情報保護の対策と情報セキュリティ：脅威と対策 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 6 | 個人情報保護の対策と情報セキュリティ：組織体制の整備 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 7 | 個人情報保護の対策と情報セキュリティ：実務知識 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 8 | 個人情報保護の対策と情報セキュリティ：オフィスセキュリティ | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 9 | 個人情報保護の対策と情報セキュリティ：技術的管理の実務知識 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 10 | 著作権保護と侵害 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 11 | 著作権保護と侵害 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 12 | 事例研究：企業におけるデータ管理の実態 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 13 | 事例研究：企業におけるデータ管理の実態 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 14 | 事例研究：企業におけるデータ管理の実態 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 15 | 学習の振り返り、まとめ | 【事前】 | それまでの講義をふりかえり、不明瞭な点をチェックし、講師に質疑できるよう準備しておく |
| | | 【事後】 | 全講義を通して学んだこと、身につけたことを整理する |

| | 評価項目/割合 | | 評 価 内 容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 30 % | 提出物の内容、期限内提出、協働作業時の貢献 |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | 出席率 、受講マナー、聞き方、質問・発言 、忘れ物の有無 |
| | 3. テストその他 | 40 % | テスト、学習成果総括レポート |
| | 課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |

| | |
|---|---|
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 外部関係部署との調整により授業内容が前後することがあります |

情報ビジネス 学科　　2年課程　　1　年

| 科 目 名 | リサーチメソッドＩＢ | | | | | | | 学期 | 後　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 斎藤　望 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 必修 | 単位数 | 2 |
| 関係実務等 | 海外開発コンサルタント企業にてウズベキスタンとネパールの観光開発のコンサルタント業務を担当。短期大学にて観光やまちづくりの分野を中心に地域課題解決人材の育成を実践。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | マーケティングに必要な定量分析の基本として、数値の扱いや統計の基本的な考え方を理解する。売上管理データを素材に、エクセルを使用したデータ分析・グラフ作成力を身につける。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 実際の企業の売上データを扱い、各種定量分析の考え方と技法を学習する。成果物として、分析結果をふまえた販売促進案を企業へ提案する。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | マーケティングの目的に合った数量データの収集ができる。クロス集計や相関分析、回帰分析など統計の考え方を理解した上でデータ分析を実践できる。分析結果はグラフや表を用いて可視化できる。分析結果をふまえた提案ができる。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 授業時に新聞を配布 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 数字で捉える「差」や「変化」 | 【事前】 | |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 2 | 企業課題と定量分析 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 3 | データベース作成、データクリーニングの実践① | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 4 | データベース作成、データクリーニングの実践② | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 5 | 売上集計とグラフ作成 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 6 | 相関分析活用：売上に関連する要素の抽出 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 7 | 回帰分析活用：売上予測、顧客満足度分析① | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 8 | 回帰分析活用：売上予測、顧客満足度分析② | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 9 | データ分析にもとづく販促提案づくり① | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 10 | データ分析にもとづく販促提案づくり② | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 11 | 提案資料作成① | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 12 | 提案資料作成② | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 13 | 提案発表とフィードバック | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 14 | フィードバックをうけての修正 | 【事前】 | 関連ページを読み、不明瞭な点をチェックしておく |
| | | 【事後】 | 講義後に理解が曖昧な点がないかふりかえり、次回クリアできるよう整理しておく。 |
| 15 | 学習の振り返り、まとめ | 【事前】 | それまでの講義をふりかえり、不明瞭な点をチェックし、講師に質疑できるよう準備しておく |
| | | 【事後】 | 全講義を通して学んだこと、身につけたことを整理する |

| | 評価項目/割合 | | 評 価 内 容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 40 % | 提出物の内容、期限内提出、協働作業時の貢献 |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | 出席率 、受講マナー、聞き方、質問・発言 、忘れ物の有無 |
| | 3. テストその他 | 30 % | テスト、最終成果物発表、学習成果総括レポート |
| | 課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |

| | |
|---|---|
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 外部関係部署との調整により授業内容が前後することがあります |

情報ビジネス 学科　　2年課程　　2　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | 卒業研究ⅡA | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 齋藤望 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 履修分類 | 必修 | 単位数 | 1 |
| 関係実務等 | 海外開発コンサルタント企業にてウズベキスタンとネパールの観光開発のコンサルタント業務を担当。短期大学にて観光やまちづくりの分野を中心に地域課題解決人材の育成を実践。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 卒業にあたり、データマーケティングを活用した事業提案を生み出す（Dream成果発表会、地域課題解決コンテスト等応募） | | | | | | | | |
| 授業内容 | 自身で課題を見つけ、解決策となる商品やサービスの提案をおこなう。パワーポイントでの説明ならびにphotoshop/illustratorを使った広報用成果物を作成する。 | | | | | | | | |
| 学習目標 | テーマを設定し、データを収集・分析し、結果を考察し、提案内容をまとめあげ、発表するスキルを身につける。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 未定 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | イントロダクション |
| 2 | テーマの選定 |
| 3 | アウトプットのデザインと調査デザイン |
| 4 | データ収集準備（ヒアリング・インタビュー・収集データの所在確認） |
| 5 | 現地調査 |
| 6 | 追加収集するデータ収集 （オープンデータ/企業データ） |
| 7 | 調査分析結果整理 |
| 8 | 調査分析結果整理 |
| 9 | 広報用成果物づくり |
| 10 | 広報用成果物づくり |
| 11 | 広報用成果物づくり |
| 12 | プレゼンテーション資料づくり |
| 13 | プレゼンテーション資料づくり |
| 14 | 発表 |
| 15 | 学習の振り返り、まとめ |

| | 評価項目/割合 | | 評 価 内 容 |
|---|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題 | 30 % | 提出物の内容、期限内提出、協働作業時の貢献 |
| | 2. 授業姿勢 | 30 % | 出席率 、受講マナー、聞き方、質問・発言 、忘れ物の有無 |
| | 3. テストその他 | 40 % | 最終成果物発表、学習成果総括レポート |
| | 課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | | |
| 目標検定・課外授業実施予定・ | 外部関係部署との調整により授業内容が前後することがあります | | |

インタナショナルビジネス 学科　　2　年

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科 目 名 | ビジネス日本語ⅡA | | | | | | | 学期 | 前　期 |
| 担当教員 | 松倉 基晴 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 演習 | 分類 | 必修 | 単位数 | 4 |
| 関係実務等 | ビジネス能力検定1級を有し、企業における勤務経験もある。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 企業内の諸活動において求められるビジネス文書について理解を深め、将来、職業人として適応できるリタラシーを身につける | | | | | | | | |
| 授業内容 | テキストの内容に基づき、日本企業で求められる社会人知識・マナー等を解説し、練習問題を通して理解を深める | | | | | | | | |
| 学習目標 | 後期(12月)に受験する『B検3級』に合格する | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 2022年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級　公式テキスト | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 |
|---|---|
| 1 | 第1編 第1章　キャリアと仕事へのアプローチ |
| 2 | 第1編 第2章　仕事の基本となる8つの意識 |
| 3 | 第1編 第3章　コミュニケーションとビジネスマナーの基本① |
| 4 | 第1編 第3章　コミュニケーションとビジネスマナーの基本② |
| 5 | 第1編 第4章　指示の受け方と報告・連絡・相談 |
| 6 | 第1編 第5章　話し方と聞き方のポイント |
| 7 | 第1編 第6章　来客応対と訪問の基本マナー |
| 8 | 第1編 第7章　会社関係でのつきあい |
| 9 | 第2編 第1章　仕事への取り組み方 |
| 10 | 第2編 第2章　ビジネス文書の基本① |
| 11 | 第2編 第2章　ビジネス文書の基本② |
| 12 | 第2編 第3章　電話応対 |
| 13 | 第2編 第4章　統計・データの読み方・まとめ方 |
| 14 | 第2編 第5章　情報収集とメディアの活用 |
| 15 | 第2編 第6章　会社をとりまく環境と経済の基本 |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　30 % | ①テキストの日本語をスムーズに音読　②漢字の練習　の二つを中心に課題を指示します |
| | 2. 授業姿勢　30 % | 出席と授業中の積極性(質問・発言等)を評価します。 |
| | 3. テストその　40 % | 単元終了ごとにミニテストを行います |
| | 課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 後期(12月)に受験する『B検3級』に合格しよう！ | |

インターナショナルビジネス 学科　　2　年

| 科 目 名 | ビジネス日本語ⅡB | | | | | | | 学期 | 後　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 松倉 基晴 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 履修分類 | 必修 | 単位数 | 4 |
| 関係実務等 | ビジネス能力検定1級を有し、企業における勤務経験を有する。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 将来の就職に向けて、ビジネスパーソンとしてのリタラシーを習得する | | | | | | | | |
| 授業内容 | ビジネスをコミュニケーションの基本、仕事の実践とビジネスツールについて理解・習得する | | | | | | | | |
| 学習目標 | 12月のビジネス能力検定（ジョブパス）3級合格をめざす | | | | | | | | |
| 使用テキスト | 要点と演習　ビジネス能力検定ジョブパス3級 | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 第1編　ビジネスマナーとコミュニケーションの基本<br>1　キャリアと仕事へのアプローチ | 【事前】 | 事前にテキスト内容を熟読し、漢字の読み方等を予習する |
| | | 【事後】 | 課題プリントへの取り組み |
| 2 | 2　会社活動の基本 | 【事前】 | 事前にテキスト内容を熟読し、漢字の読み方等を予習する |
| | | 【事後】 | 課題プリントへの取り組み |
| 3 | 3　コミュニケーションとビジネスマナーの基本 | 【事前】 | 事前にテキスト内容を熟読し、漢字の読み方等を予習する |
| | | 【事後】 | 課題プリントへの取り組み |
| 4 | 4　指示の受け方と報告、連絡・相 | 【事前】 | 事前にテキスト内容を熟読し、漢字の読み方等を予習する |
| | | 【事後】 | 課題プリントへの取り組み |
| 5 | 5　話し方と聞き方のポイント | 【事前】 | 事前にテキスト内容を熟読し、漢字の読み方等を予習する |
| | | 【事後】 | 課題プリントへの取り組み |
| 6 | 6　電話応対 | 【事前】 | 事前にテキスト内容を熟読し、漢字の読み方等を予習する |
| | | 【事後】 | 課題プリントへの取り組み |
| 7 | 7　来客応対と訪問の基本マナー | 【事前】 | 事前にテキスト内容を熟読し、漢字の読み方等を予習する |
| | | 【事後】 | 課題プリントへの取り組み |
| 8 | 8　冠婚葬祭のマナー | 【事前】 | 事前にテキスト内容を熟読し、漢字の読み方等を予習する |
| | | 【事後】 | 課題プリントへの取り組み |
| 9 | 第2編　仕事の実践とビジネスツール<br>1　仕事への取り組み、仕事の進め | 【事前】 | 事前にテキスト内容を熟読し、漢字の読み方等を予習する |
| | | 【事後】 | 課題プリントへの取り組み |
| 10 | 2　ビジネス文書の基本 | 【事前】 | 事前にテキスト内容を熟読し、漢字の読み方等を予習する |
| | | 【事後】 | 課題プリントへの取り組み |
| 11 | 3　統計データのつくり方、読み方 | 【事前】 | 事前にテキスト内容を熟読し、漢字の読み方等を予習する |
| | | 【事後】 | 課題プリントへの取り組み |
| 12 | 4　情報収集とメディアの活用 | 【事前】 | 事前にテキスト内容を熟読し、漢字の読み方等を予習する |
| | | 【事後】 | 課題プリントへの取り組み |
| 13 | 5　会社数字の読み方 | 【事前】 | 事前にテキスト内容を熟読し、漢字の読み方等を予習する |
| | | 【事後】 | 課題プリントへの取り組み |
| 14 | まとめと試験対策（1） | 【事前】 | 事前にテキスト内容を熟読し、漢字の読み方等を予習する |
| | | 【事後】 | 課題プリントへの取り組み |
| 15 | まとめと試験対策（2） | 【事前】 | 事前にテキスト内容を熟読し、漢字の読み方等を予習する |
| | | 【事後】 | 課題プリントへの取り組み |

| | 評価項目/割合 | 評 価 内 容 |
|---|---|---|
| 評価基準 | 1. 課　題　20 % | プリント問題による課題 |
| | 2. 授業姿勢　30 % | 出席と授業中の受講態度 |
| | 3. テストその他　50 % | ミニテスト |
| | 課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |

| | |
|---|---|
| 目標検定・課外授業実施予定・その他 | 12月のビジネス能力検定（ジョブパス）3級を受験し、合格をめざします。 就職に直結した内容を学習するとともに、JLPT対策も兼ねます。 |

インターナショナルビジネス 学科　　1　年

| 科 目 名 | マーケティング概論ＩＡ | | | | | | | 学期 | 前　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 本保 智 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 分類 | 自由選択 | 単位数 | 2 |
| 関係事務等 | 平成3年～8年　株式会社ジェック経営コンサルタント　勤務。マーケティング調査等の業務担当。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 理論としてのマーケティングを学ぶ、仕事をしていく上で必要不可欠なマーケティング・センスを養う学習をする。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 理論としてのマーケティングを学ぶだけでなく、仕事をしていく上で必要不可欠なマーケティング・センスを養うことを目的とす | | | | | | | | |
| 学習目標 | 理論としてのマーケティングを学ぶだけでなく、仕事をしていく上で必要不可欠なマーケティング・センスを身に付け理解する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | これだけは知っておきたい「マーケティング」の基本と常識（改訂版） | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | マーケティングとは何か？ | 【事前】 | テキストを読んでおく |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 2 | なぜマーケティングが必要なのか？ | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 3 | 市場や販促などの考え方の基本 | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 4 | 「消費者」「生活者」とは | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 5 | 消費者の購買動機　「消費者」「生活者」とは | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 6 | 市場をとらえて戦略を立てる　「消費者」「生活者」とは | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 7 | 「売れる戦略」をつくる | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 8 | ヒット商品の条件 | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 9 | 商品戦略 | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 10 | 品質の定義 | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 11 | 価格戦略 | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 12 | 流通戦略 | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 13 | プロモーション戦略 | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 14 | プロモーション戦略 | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 15 | マーケティングの基本を確認する | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |

| | 評価項目/割合 | 評価内容 |
|---|---|---|
| 価 基 | １．課 題　40 % | 課題の完成度、提出期限などを考慮して評価する。 |
| | ２．授業姿勢　30 % | 授業態度、積極性、発言度などを考慮して評価する。 |
| | ３．テストそ(　30 % | 期末テストにより評価する。 |
| | 課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 外授業実施 | | |

インターナショナルビジネス 学科　　1　年

| 科 目 名 | マーケティング概論ＩＢ | | | | | | | 学期 | 後　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員 | 本保 智 | 科目区分 | 専門 | 授業方法 | 講義 | 分類 | 自由選択 | 単位数 | 2 |
| 関係事務等 | 平成3年～8年　株式会社ジェック経営コンサルタント　勤務。マーケティング調査等の業務担当。 | | | | | | | | |
| 学習目的 | 理論としてのマーケティングを学ぶ、仕事をしていく上で必要不可欠なマーケティング・センスを養う学習をする。 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 理論としてのマーケティングを学ぶだけでなく、仕事をしていく上で必要不可欠なマーケティング・センスを養うことを目的とす | | | | | | | | |
| 学習目標 | 理論としてのマーケティングを学ぶだけでなく、仕事をしていく上で必要不可欠なマーケティング・センスを身に付け理解する。 | | | | | | | | |
| 使用テキスト | これだけは知っておきたい「マーケティング」の基本と常識（改訂版） | | | | | | | | |

| 週数 | 授業計画 | 事前・事後の学習 | |
|---|---|---|---|
| 1 | マーケティングはデジタルの時代へ | 【事前】 | テキストを読んでおく |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 2 | eコマースが生んだ「eマーケティング」 | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 3 | Webマーケティング | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 4 | メールマーケティング | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 5 | ソーシャルメディア・マーケティング | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 6 | ネット通販が生んだロングテール | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 7 | フリーミアムのビジネスモデル | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 8 | ビッグデータとは | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 9 | コンテンツ・マーケティング | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 10 | インバウンド・マーケティング | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 11 | 事例研究 | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 12 | 事例研究 | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 13 | 事例研究 | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 14 | 事例研究 | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |
| 15 | 事例研究 | 【事前】 | 事前プリントを学習する。 |
| | | 【事後】 | プリント、レポートを提出する。 |

| | 評価項目/割合 | 評価内容 |
|---|---|---|
| 価 基 | １．課 題　40 % | 課題の完成度、提出期限などを考慮して評価する。 |
| | ２．授業姿勢　30 % | 授業態度、積極性、発言度などを考慮して評価する。 |
| | ３．テストそ(　30 % | 期末テストにより評価する。 |
| | 課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。 | |
| 外授業実施 | | |